明治三十三年六月二十日發行（明治二十一年二月二十八日内務省許可）

婦人衛生雜誌

第百貳拾七號

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第百貳拾七號目次

講演

寄書

衛生叢談

中外彙報

近事談片

大日本婦人衛生會記事

本會々報

歯の良否

第一 完全なる歯牙を有する人　第二 完全なる歯牙　第三 同上顎

（一）中切歯

（二）側切歯

（三）犬歯

（四）第一小臼歯

（五）第二小臼歯

（六）第一大臼歯

（七）第二大臼歯

（八）第三大臼歯



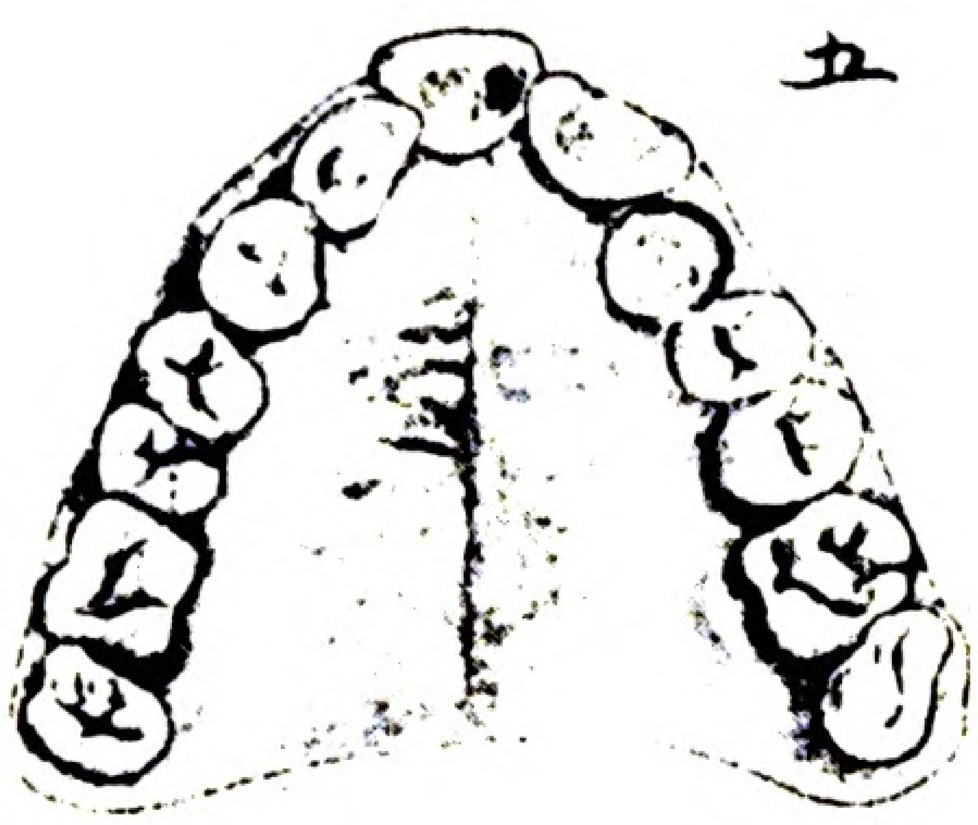
第一



第四



第二



第五



第三



第六

第四 歯の抜き方不注意による變形　第五 習慣によるV字狀上顎　第六 V字狀上顎を有する人

婦人衛生雜誌第百二十七號

（明治三十三年六月二十日發行）

講演

妊娠と齒牙の關係

ドクトル　伊澤信平君述

側速記事務所員速記

今日御話致しまする題はこゝに書いてございます通り、妊娠と齒牙の關係と云ふことに付て申さうと思ひます、御婦人方の妊娠は非常に御名譽のことでございまして、丁度昔の武士が戰場に出るのと同じやうなことであらうと思ひます、併し其武士が戰場へ出る名譽の中には名譽の勝利と云ふのもあれば、又名譽の戰死と云ふもございます、御婦人の名譽の勝利とも云ふべきものは御分娩をなすつて後に御肥立が宜くつて、生れた御子樣が健康であれば何より名譽の御勝利であらうと思ひますが、軍人と比較した名譽の戰死……これは餘り御婦人の方には宜いことではないと思ひます、然れば專ら名譽の勝利と云ふものに眼を着けなければならぬと思ひます、名譽の勝利を軍人が得るには何が一番肝要であるかと申しますると、即ち作戰計畫が一番肝要であらうと思ひます、新聞などで御承知でございませうが、英吉利と南阿の戰爭などは、一度戰爭が始つたら英吉利がズン／＼勝つて仕舞つて、直ぐと勝負が附くだらうと皆一同に信じて居りました、所が初めの内は大分英吉利は勝利を得ないやうに承知しました、之を段／＼新聞で見ますると政府の作戰計畫が熟さない中に戰ひを始めたからであらうと申します、戰爭に勝利を得やうと云ふには十分に作戰計畫を立てなければなりませぬ、そこで御婦人の妊娠に付て作戰計畫を

すると云ふのは、何う云ふことであるかと云ふと即ち御養生でございます、近頃は婦人衞生會と云ふやうな結構な會が出來まして、御婦人達も大層衞生の道を御考へになるやうになりました、それでありますからして御懷妊でもなさるとそれ〲の御養生を爲さいます、隨て一層御叮嚀になさる方は產科醫に診察をして貰つて、それ〲の注意を受けて御養生をなさる方が大變出來て來ました、併し懷妊をしたからと云つて齒の御注意をなさる方は未だ比較的少ないやうに思はれます、是も御尤もの次第でサア懷妊したからと云つて齒醫者の處へ往く人はない、懷妊すれば產科の所へ往くのは定つた話でございます產科專門家は自分の專門上の事を重もに御話しなさいますは至當の事であります專門科の中には齒のことも少しは注意なさる方もありますが、齒科專門家のやうに委しいことは申しませぬから齒の養生の方は兎角御留守勝になります、それで齒牙の構造はスツカリ破壞されて仕舞つて、其痛みを覺へて來る時分に始めて齒醫者に掛る、通常齒痛は出產の極く初めの中は痛まないで末期になつてからが多い、其時分に到りて御養生をなさつたつて所詮晚播の話ですから、それで仕方がないからホンノ痛みを癒すと云ふだけに止つて仕舞つて、最早御養生を御敎へ申す機會がない、それのみならず御療治とても全く十分と云ふ譯に往かず、極く完全の療治が出來ない、完全の療治をすると却て御產婦の爲に宜くないから唯痛みを止めるだけにして置くより他に仕方がないのでございます、

それで御婦人が御懷妊なすつて、最初から御注意をすると云ふことに付て御話を致しませうが、此齒と云ふものは何から拵へられて居るかと云ふと、大躰は石灰から出來上つて居ります、其石灰は單純の石

灰ではございませんで塩酸と組立つてあるとか炭酸と組立つてあるとか云つて、一種の塩類で歯を組立つてある、其塩類が澤山ある歯は病に抵抗する力がある、語を換へて申しますと病に冒されることが少ない、其鹽類に富んで居ない歯はそれに反對の現象を起すのでございます、さうして御子さんの歯は何にから組立てられると申さば矢張同じ石灰より組み立てられてあるのです、さうすると胎内で石灰を取つて御歯を拵へる時は、何處から其石灰を取るかと云ふと他に取りやうがないから御母さんの御躰から取るより他に仕方がない、然れば母たる者は通常食物で毎日石灰分を取つて居らつしやるよりは、殆んど倍の石灰分を取らないと御子様の方へ十分にそれを與へることが出來ない、兎に角其石灰分を取るには通常の食物を喰て居つては、遂には御子様の方でも必要なる分量の材料を得るの途がない、仕方がないから御母さんの處の幾部分を以て往つてさうして歯を拵へると云ふやうなことになります、それ故に其お母さんの方の歯が段々悪くなるのでございます……私は若い中は誠に歯が好かつたけれども、二三人子供を産んでから誠に歯が悪くなつた……と云ふやうなことを能く御婦人から承ります、それは今申したやうな譯で、懐妊中に御子さんに石灰を取られて仕舞ふのでございます、それはお母さんの御心持でナーニ自分の歯が悪くつても子供の歯が好ければそれで宜いとお諦らめなさる御方もございませうが、それは餘り諦らめが早過ぎる成程御自分の歯は悪くつても子供の歯が好ければそれで宜いけれども、本來は他所から持つて來べき石灰分をお母さんが取らぬから、自分の石灰分の或分を割いて御子さんに遣る其御子さんは御母さんの僅かの石灰分で歯を造らへるから石灰分不足の處が出來る故矢張歯が

惡い、それ故に御懐妊なすつたならば注意して、適當に石灰分の這入つて居る食物を喰べるやうになさると、御自分の歯も好くなり子供の歯も好くなる、一擧兩得の御處置と申すべしだ此注意とても非常に面到なことであるとか六ケしいことであるなれば詮なきことでありますが、今申した通り石灰分の多く這入つて居る食物を喰べると云ふだけでございます、石灰分が這入つて居る食物と云ふのは幾らもございます、一例を申しますとあの食パンなども宜いのです…其食パンも餘り上等に拵へてある眞白な食パンは却て石灰分は少ないのでございます、少し黒味掛つたパンの方が宜しうございます、眞白な食パンは何だと云ふと小麥の上の皮を取れるだけ取つて仕舞つて、純粹の澱粉の部分ばかり寄せて製したのであります、此方が喰べるには大變味が甘いが、其代り石灰分は丸でないと云つて宜しい位です、少し黒ずんだ方は皮が幾らか混つて居りますから、何うしても石灰分を含んで居ります、それで私は歐米に行つた時に見ましたが、亞米利加人と獨逸人と何方が歯が宜いかと云ふと獨逸人の方が餘程宜いです、殆んど日本人位かとも思はれます、それは色々食物の關係、或は種々の狀態の關係等も原因でありませうけれども、矢張パンですね、パンを日常食物とするのに亞米利加の人は極く精製をした眞白なパンを喰べます、獨逸人は少し黒味のあるパンを喰べる、そこいらにしても歯の良し惡しに關係があることが了ります、それ故に御懐妊でもなすつたら、餘り喰べ惡い物でもないからパンでも喰べてそうして能く消化して往かなければなりませぬ、其他御婦人が石灰を取る法に就ひては醫者の方には種々な方がありますけれども、御素人方が極く簡便に御用ゐなすつて、それ程害のないと云ふものは石灰水です、あれ

は藥種屋で石灰水と云つて御求めになれば直きに買へます、三度の御食後珈琲などを飲む時の匕に一杯位づゝ召上つて置けば、餘程多足になります、此石灰水を飲むと云ふことに付ては中には色々學者の議論もありますけれども、隨分それを用ゐて自分の齒も健全に、子供の齒も健全に出來たと云ふ例もございますから、寧ろ益があるとも害のあるものではありませぬ、「フェロー」氏の次亞燐酸鹽舍利別を用ゆるともあります、あれは中に隨分劇藥が這入つて居ますから、能く醫者と御相談をして用ゐないと却ていけませぬ、あれはチヨツト口當りが宜しうございます、其他「スコツト」乳果なども宜しうございますが、總てさう云ふものは一應御醫者に御相談になつた方が宜しうございませう、併し幾ら石灰を喰べても能く消化し新陳代謝して子供に與へて往かなければいけませぬ、唯石灰水を口へ入れた丈で胃腸部を素通りして仕舞つたのではいけませぬ、矢張適當に御運動をしなければなりませぬ、適當の御運動と云ふのは只漫りに車に乘つたりすることは不可ない、靜かに身體に障らないやうに室の內外で御運動をなさいまし、懷妊した時の運動は平常の運動とは違ひますから、能く其御思召で願ひます。

それからもう一つ齒を惡るくする原因があります、御懷妊なさると唾が性質を變へて來る、通常の唾は「アルカリー」性ですが、御懷妊なさると大概のお方は酸の性質を帶びて來る、其上ならず御懷妊の極く初期には惡阻の甚い方だと嘔氣が來まして、さうして酸敗液見たやうなものを吐く、そう云ふのは餘程強い酸でございます、それが爲に餘程齒に害を及ぼす、齒は石灰鹽から成立つて居りますから、其石灰鹽と云ふものは酸の強い爲に溶かされて仕舞ふ、さうして終には齒牙から外へ取除けられるやうなこと

になります、さう云ふ譯で御懷妊の時には御子さんの齒を拵へる爲に石灰分を取られ、其上に酸の爲に又取られると云ふやうな譯でありますからして、成るべく石灰分を有する物を食するのが肝要でございます、それで御子さんに取られるならば親戚に取られるんですから仕方がありませぬが、酸の爲に取られるのは即ち他人に取られるのですから、餘程戸締りを嚴重にしなければ御損です、それは何うしたら宜からうかと云ふと含嗽です、能く醫者と御相談なすつて適當の品で含嗽をおやりになるが宜しうございます、御素人方の簡便なやり方は重曹を御求めになつて、水を混ぜて使へば宜しうございます、重曹といふものは他の藥のやうに胎内に這入つた所がサウ身体に長く止つて、さうして害を與へると云ふやうなものではございませぬ、胎内にはズット排泄する場所があつて、胎外へ排泄して仕舞ひますからして、そんなに御心配をする程惡い藥ではありませぬ、却て胎内に這入つて宜いやうな場合もあらうと思ひます、それで唾といふものは大概の方は御懷妊なさると變るんですけれども、中には變らないで「アルカリー」性で居る方もあります、それは前に試驗をする方が宜しうございます、素人方に極く分り易いのはこんな字消ゴムです(字消ゴムを示す)之を能く綺麗に洗つて、さうして口を一旦水でも湯でも宜いから含嗽をしてから之を口の中に入れて嚙んで居る……嚙んで居ると自然に唾が出て來る、さうして小さい猪口へ斯ふ遣つて唾を御入れになる、御嚙みになつては斯ふ遣つて入れて居れば猪口に三分の一位溜るのは直きです、さうして試驗紙と云ふものが有りますが、其試驗紙の青いのを其唾の中へ入れて、其紙が赤い色になれば其唾は酸性であると云ふことが分ります、そこで其唾液が酸でなくして「ア

ルカリー」性だと云ふことを知るには赤色の試驗紙を入れて青色に變すれば分ります「アルカリー」性だと云ふとが解かれば、そんなに含嗽藥を用ゐる必要はありませぬ、齒も冒されやしない、それから一つ御注意を願ひますが、お唾をなすつて置いてから何か御用事があると云つて其試驗を後にしやうと云ふやうなことのないやうにして、成るべく直ぐと試驗をしないと唾が色々の變化を起しますから、成るべく早くなすつて戴きたいのでございます。

それで若し唾も酸の性質を帯びて居て、さうして齒の石灰分を取去つて往くし、御子さんには取られると云ふやうな時に油斷して、もうスッカリ前に充塡をして置いたから惡い齒はないと云つて介意ないで居らつしやると、大變な間違が起る、充塡物を詰めるときには齒の質と充塡物と密着して居つても、唾と御子さんの爲に石灰分を取られる、其継目の處が惡るくなるから其充塡物が取れる、其取れました時に餘程注意をしなければなりませぬ、終局齒に缺損部があつて穴があつたからして物を詰めたんですから、そこへ以ていつて其充塡物が取れる位ですから、それが爲に尚一層穴が大きくなつて居て、病敵に御出なさいと言はないばかりになつて居る其穴へ病敵が突き込んで來たならばモウ一層齒を害するから痛みも烈しくなります、御懐妊中齒が痛いと云ふやうなことは、前申した通り御子様に石灰分を取られるのと、それから唾が酸性になるのとは重もな原因ですけれども、此充塡物を打遣つて置くので大變な大事になるやうなことがございますから、其邊に能く御注意をなさいまし

それで今御話申したやうな次第で、御齒の方の石灰が段々無なつて來ますと、齒の病敵に冒されるのを防く力が隨て鈍くなります、さう云ふ場合には齲

齒の原因が其弱つて居る齒に附込んで往つて、さうして今此石灰分を酸の爲とか或は御子さんの爲に取られると、今度は病敵が劇しく其齒の組織を壞して往く、さうするとズッ〳〵虫齒が出來て來る、出來て來ても一寸は氣が着かない、段々奥に這入るに隨て酷い痛みを感じて來る、さう云ふ場合には平常の痛みとは違つて餘程痛みが酷い、それが爲に御氣分にも障るやうなことが幾らもございます、御氣分に障れば矢張胎兒に障つて來る、さう云ふ場合には御療治も長く掛つてしては不可ない、餘り長くしてそれが爲に大變害を與へると云ふやうなこともありますし、隨分甚しきに至りては受胎部の諸筋の萎縮に因つて墮胎をなさると云ふやうな場合もありますから餘り御療治を長くしない方が宜いのです、齒醫者は御懷妊なすつた方をそんなに長く御療治を致しませぬは右の次第でありますから何うしても極く完全な療治をすることが出來ませぬ、所謂姑息の御療治をして置かなければなりませぬ、御承知の通り姑息の療治と云ふのは完全の療治の反對ですから、サウ何時までも癒つて居りませぬ、醫者の方でも一時御痛みを寛めるだけですから、是で長く御痛みはないと云ふ御請合は出來ませぬ、併し其輕症なのはそれで濟むが、時に依ると御産が濟むまで中々待たないで非常な痛みを起すのがある、斯ふ云ふのが一番困ります、何うしても斯ふ云ふのは仕方がありませぬ、だから御懷妊なさる前に平生能く注意して御出になるより他に仕方がないと思ひます、それで矢張戰爭の方でもさうです、戰爭に勝たふと云ふには先程申した通り作戰計畫を能くしなければなりませぬ、作戰計畫と云ふのは戰爭が起つてからしては中々好い作戰計畫は出來る者でない、戰爭の起らない前平常軍人が研究に研究を重ね訓練に訓練を重ねて

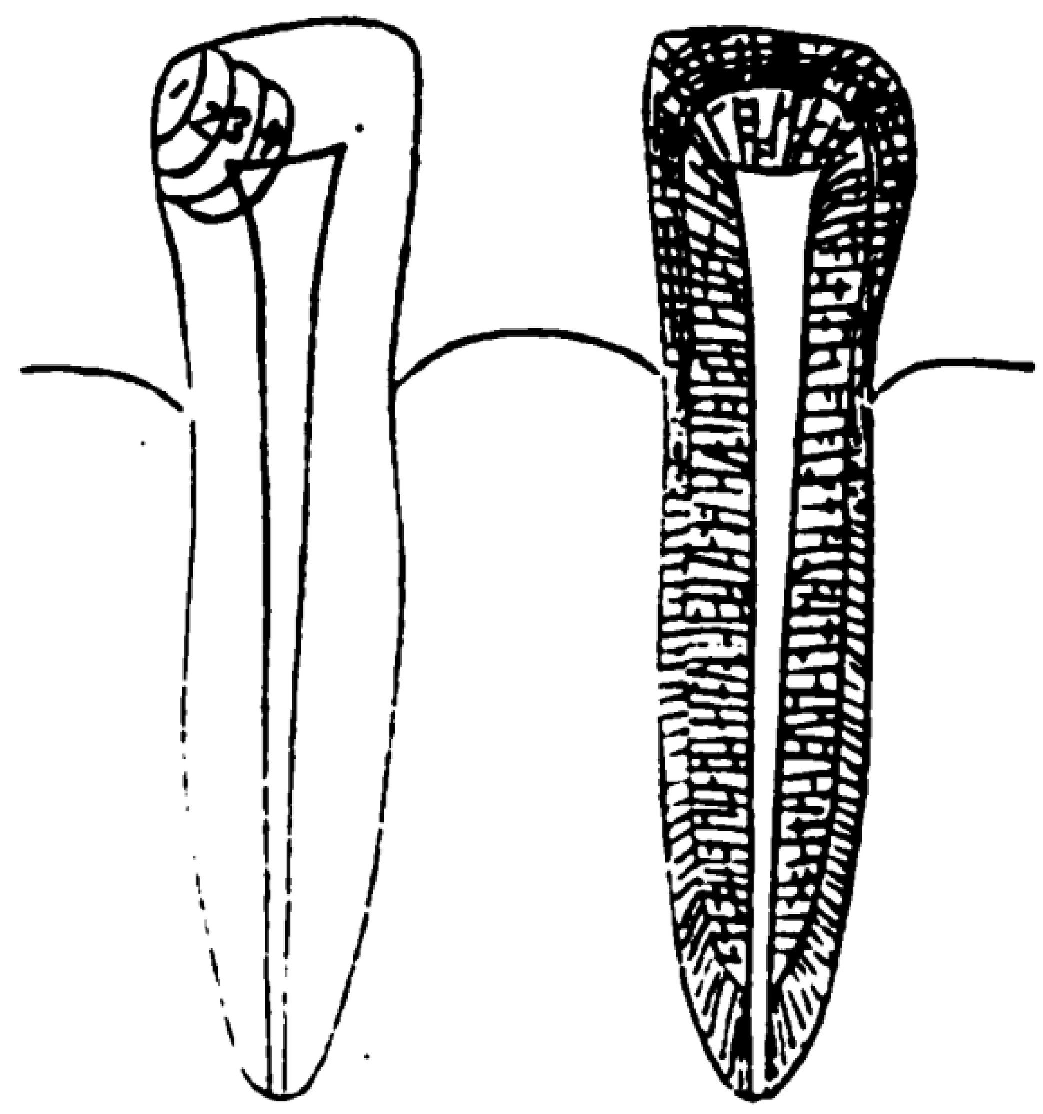
然る後戰ひに當つて始めて好い作戰計畫をすることが出來るのです、それと同じで御婦人の戰爭とも云ふべき御產も、其時に當つて御養生をなさるより矢張平常から御注意をしたら尙ほ宜いだろうと思ひます。

偖て御懷妊中に起る齒の病氣は一番何が多いかと云ふと、矢張齲齒です、先づ百人齒で御惱みになる中で九十人までは齲齒で惱む方です、それですから齲齒を能く御注意になるが宜かろうと思ひます、それで其齲齒と云ふものは早く御療治をなさると遲くなさるとは大變な違ひがございます、早く療治をなさると醫者の方でも手が掛らない、醫者の方で手が掛らない位であるから、御當人も苦痛を餘り感じないで時間も費さずして完全な療治が出來ます、若し打遣つて置いて段々大きな穴になつて、遂には中の齒髓でも出て來ると云ふやうになつてから療治を御受けになると、御當人も中々御苦痛で、醫者の方も初發の齲齒から比較すると手數を多く費さなければならぬ、手數を多く費したらそれで完全に確かに癒すことが出來るかと云ふと、其割合に初發の人のやうに完全に癒らすことが出來ない、歐羅巴だの亞米利加の人々は大變此點に注意があつて、若し小さい穴でもあると直ぐに齒醫者の所へ往つて相談して、充塡物を詰めべきは詰めて仕舞ひますから、それ程苦痛も感じないで誠に都合好く完全の治療をすることが出來る、それで歐米の人は男女に拘はらず通常每日時々鏡を見る其序でに折々齒の檢査をする、日本では鏡で日に幾度となく御容貌をば御映しになる御方はあるけれども、序でに齒も映すやうにして御注意なさる方は餘りないやうです、何うか齒も偶には顧みて戴きたいと思ひます。

それから私は御素人方に能くお分りになるやうな

圖を拵へたいと思つて居ましたが、此間こゝに出ます御請けをしてから種々考へて居りまして、こんな圖を拵へて來ました、是れで御覽になると分ります

（是より圖解に移る）



是れは丁度齒の眞中を斷割つて仕舞つた圖でございます、さうして此齒を見て此圖を拵へたのです（一個の齒を示す）之れは人間の齒です、之をどうか御手に取つて御覽なすつて下さいまし、それで此圖に斯樣に一二三四と數字が附いて居ります、そこで齒には御承知の通り種々の質がございますが、それは解剖的のことですからそこの所は御話を除きまして、唯治療するには何處らが一番適當と云ふことをお話致します、大躰は齒は石灰分より成立つて居るので、此圖の赤い處のみ軟組織より組み立てられて居る之を齒髓と申します精密に申さは齒牙は、軟組織と硬組織と斯ふ二つから成立つて居る、それからこゝが腐蝕したと假に定めたんです、（圖中一二三四の所を指す）一二三四と四期に分つて居りまして、其一と云ふ處あたりで療治をすると大變に早く療治が届く、それから二と云ふ處では冷たい水だとか或は熱い湯が少しはしみるんです、其位ですから一二と云ふ處で十分療治をしてスッカリ充塡物を詰めて置けば格別の成蹟を得ることが出來ると思ひます、三は齒髓に餘程近いので、此處から此處の間はソロ〱……ソロ〱所じやない半分以上モウ時期ですから非常に痛みを感じて來ます、それで斯ふ云ふ期

になつてから療治をすると、第一二期から比較すると餘程手も掛るし、其割合には成蹟が惡いです、又此齒髄が暴露れて來るまで腐蝕すると、非常に痛んで參ります、それを唯堀つて詰めて置けば倘ほ痛んで來るから、それにはそれ相應の療治をしなければならぬから大變に手が掛ります、それ故に成るべくお早い中に確かの療治を遣らないといけませぬ、さう云ふ譯ですから御懷姙前に齒に少しおかしいやうなことがあつたならば適當の療治をして貰つて、御懷妊になつたら今申した通り第一石灰分を喰べ、又酸を消す含嗽を爲し、さうして適度の運動をして居れば御子さんも御自分も健康なお齒を保つて往くことが出來、即ち一擧して兩得の御利益が出來やうと思ひます。

（完）

乳齒出齦期發病の話

中畧今玆に續いて乳齒出齦期發病と云ふ事に就て、御話を仕やうと思ひます。これは乳齒の出ます時に病が發して、隨分危險なる害を御子樣方に生ずる事がある其病の狀態を申上げるので有ります。一躰乳齒は天理の法則に從ッて出るので有りますから、之に因て病を發する事は無い筈であります。然るに屢〻病を起して小兒を害すると云ふ事のあるのは、恰度譬へて云へば御產をなさる御方が、產科醫に懸るのは寧ろ稀で御座いませう、たゞ僅に產婆の手を借りて御安產なさるのが、普通なので有ります。然るに今日の講師千葉君の如き先生の度々御出でを要する事が世間に往々あります。小兒の齒の出る時に發する病も矢張りサウ云ふやうな狀態で、此時に病に罹る者は無いやうであるが、又隨分世間に多く在る事で御座います。ソレで乳齒が出る爲めに病を發す

るは當人の不幸は勿論で有りますが、是れも又平常養育者たる母親の注意の善し惡しにも多少關係する事と思ひます。隨分此病氣に就ては生涯不具の人ともなり、或は甚だしきに至ッては、黄泉の客となるやうな不幸を呈する事も往々有ります、此乳齒が出る爲めに病氣を起して死亡する小兒の數は、私はまだ日本の統計は知りませぬが、數年前の英國の統計表を見ると生れてから十二ヶ月までに死ぬ小兒が百人に付四人、次に生れましてから十二ヶ月以上經過しました時から、三年の間にソレが爲め死ぬ小兒が百人に付七人であると云ふ事を聞きました。又不意に腦とか或は神經とかの病を起して死ぬ御子さんがあるが、ソレを能く調べて見ると、其原因は齒が出る時に起ッたものが隨分多い。西洋の昔の書物に毒齒といふ事が書いて有る。毒齒とは人間に一種の齒が生えて居る、其齒は人のからだを損ふもので有る、ソレを早く拔かないと、終には身命にも懸る恐れが有ると云ふことが書いて有ります。隨分世の中に三寸の舌を以て、人を毒殺すると云ふ事は聞きますが、天理に因て齒が生えて、其齒が人を殺すといふ事は無からうと思ひます。思ふに是れは其書物の著はされた時分は今日の如く文明の世でもありませぬが故乳齒の出る時に起ッた病でからだを損ふのを思ひ違へて、毒齒と云ふものが有るやうに考へて、サウ云ふやうに書物に著したのではないかと思ひます。乳齒の出る時は前會に亂杭齒の御話の節申した通り、大抵五ヶ月から三十六ヶ月即ち三歲までに上下の齒が揃ふので、其時期が一番危險なる時であります。然るに此年齡に於きましては自分の感覺を人に訴へる事は出來ない。痛いとか痒いとか云ふ事を人に話する事は出來ぬ時でありますから、何事も斯うだらうとか、アヽだらうとか、傍から想像するに過ぎま

せぬ。近頃は小兒科も巧みなる診斷法で診斷して、別に小兒の言葉を借りないで癒す事が出來るが、昔漢方の治療法ばかりの時分は、今日の如く治療法も進んで居らず、小兒は唯泣くだけて、少しも病氣の分らない事が澤山にあッて、完全なる診斷をすることが出來ないので、小兒科と云ふことを、——小兒は物を言ふ事が出來ないので有るから、啞と云ふ字を書いて啞科と申しました。是れ位ゐに小兒の病氣は解らないものと昔はなッて居ッた、ソレ位ゐのことで有りますから、小兒に病氣の起ッた時は、常に小兒を養うて居る人か此年齡では模樣に因ては齒が生えるので有らうと云ふ事に御注意なすッて、ソンな事から他の部分を害する病氣の起ッたときは、中し換えて見れは乳齒を早く出すやうにして、可愛い御子樣を生涯不具の身、或は黃泉の客となる樣な不幸に陷らないやうに御注意なさらなければならぬ。

次に乳齒の出る時は外から見た處はドウ云ふ工合であるかと云ふ事を御話致します。

乳齒の出る間近かになれば、唾液が澤山に出て參るやうになります、ソして齶が痛いやうな、痒いやうな感覺が有ッたので私共も昔一度はサウ云ふ事が有ッたので御座いませうが、生憎今は覺えて居りませぬ先づサウ云ふやうに、齶がむづかゆい處から兎角口の中に手を入れたがるやうで、傍に附いて居る人が齶を擦すッて遣るとヂッとして居るやうになる。モウ一層間近くなると、齶に赤みを持ち、齶にもからだにも熱が出てソコが固くなります、又モウ少し近くなると、齶が壓迫の爲めに白くなります。又サウ云ふ風に白く腫れ上ッたのが惡るくすると、瘤の樣になる事が有ります又瘤の樣になッた部分が爛れるやうな事が有ります一體齶と云ふもの丶構造は他の柔軟なる肉とか皮膚とか云ふものより固いも

ので有りますから、少し位ゐ刺戟しても病氣になるものでは有りませぬ。而して肉などを推して見ますると、多少痛みを感じますので有りますが、健康の齶なれば痛いものではない。併し一旦病氣になッて焮衝でもすれば矢張り痛い。齶が斯様に腫れて爛れるやうな場合には小見が乳を飲む事を嫌ひます。其時に傍らの者は乳を召し上らぬのは、ドコか身躰が悪るいのではないかと云ふ感覺を起して、齒が生えるので有らうと云ふ事には一向心付かず、外に向ッて手當をする事が有る。是れは少し注意をしなければならぬ、僅かの注意をすれは齒の生えるので有るか、からだの病氣で有るか位ゐは分らない事はないと思ひます。外の病氣なれば、胸に一杯支へたとか吐くとかなんとか、ソコに故障が有るのでありますが、併し齶の痛む爲めに乳を嫌ふのであれば、兎に角口に入れる御試みは有るので御座いますが、乳房が齶に觸れると齶が痛いから口に入れるのを嫌うのでありますから、ソコの處を見分けるやうに注意しなければならぬ。

其外齶から起る病には、下痢の起る病には、下痢を起します事が有ります。少しく尾陋の御話になりますが、下痢を起すに就て早く癒さうと思召すと、強い下痢なれば勿論充分の御手當をしなければなりませぬが僅かに緩む位ゐのことなれば、僅かの事を手當して止めると、却て御子様方の齒の出るのを害する事が有りますから、少し位ゐの緩みましたのは捨てゝ置く方が、齒の出る爲めには宜しいので有ります。ソコの處も能く御注意なさらなければならない。

乳齒から病氣になるのは、齶の一方とか、或は兩方の齶が眞赤になッて來る事が有りますが、是れは神經病がソレが爲め起ッて來たといふ證據になる事で

御座います。ソレから又頬とか頭とか、身體中の曲く節に發し物がするとか、又口とか唇とか若くは頬の内面がウヂヤヂヤけるとか、鼻の先きが痒くなるので、屢々鼻の先きに手を遣ッて搔くやうになる其外肉が引き痺れるとか、眼の瞳子が擴がッて大きくなり、ソレが爲め安眠を妨げる御休みになッても屢々目を覺まし易いとか、御口が乾くとか食物を召し上らぬとか、先づ以上述べましたのが歯の出る時に起る病で有ります。是れ等の病は前に言ふた、輕症下痢とか、或は齶の少しばかり爛れるやうなことゝは違ッて、隨分歯の出るときに起る病としては、重い方の病氣でありますが、これがモウ一層強くなると、万事に就て疳癪を起すとか、眠ッても唸るとか、又目を覺せば叫んで居り、傍から慰めると玩弄物を放り出すとか、又養育の方を打つとか、引搔くとか云ふ樣に御疳氣が募るとか、ソレから又視力にも差響きがあるやうで、其病氣が起ると、屢々眉を御寄せになッて、なにか光線に堪へ難いと云ふ樣な風に見える。或は耳を引張るとか、頭の毛を引張るとか云ふ事をする斯樣な事も一ッの診斷になります又食物を消化す處の消化器も、常とは異ッた容躰に爲ります。即ち食物を餘り好まぬとか、ソレを無理に強て御上げなさると、吐瀉するとか、胸が惡るくなるとか、下痢を起すとかして、サウ云ふやうな事が段々募ッて參ると、遂にからだが衰弱して絶命する事が有ります。併し是等は早く注意をすれば癒るのが何より恐ろしきは神經病の起る事で有ります、其中にも身體の神經が閉ぢて、物事が御解りにならなくなるとか、或は腦膜炎を起すとか云ふやうな事になると是れは最早御死になさるに近いと申しても宜しい位ゐで、甚だ危險なる場合で御座いますから、餘程御注意なさらなければならない。譬へて見れば、

神經と云ふものは恰もからだの中の電話線で、腦は電話交換局と認めて宜しいので御座います。今日は電話を以て東京から横濱までも事を傳ふることが出來るので有るから、ソレと同じやうに齒から腦の交換局に事柄を傳えるのは、別に不思議もないと云ふ事は今更私が喋々と述べませんでも、貴婦人方は已に御承知になッて被爲入る事と思ひます。人間のからだも此理由と少しも異りませぬから、齶が病氣の爲めに、腦とか或は其他の病氣を惹起すのは横濱から東京までの如き長い距離では無い、唯僅かに齶から腦其他に傳えるのは、寧ろ普通の事と思ひます、斯くの如くからだ中に電話が傳ッて居るから、一ヶ處に病があると他の部分へまでも關係を及ぼすから、平常健康を計らうと思ふなれば、チヨッと僅の部分故、左程大騷ぎをするには及ばないなどゝ云ッて捨てゝ置きますると、遂に不治の病と爲るやうな事が有りますから、たとへ僅かの病氣でも注意が肝要で御座います。弱り目に祟り目と云ふ事が有りますが、譬へていへば、品行の方正なる人は、讒言の附け入る隙が無い。病も平常健康の者には附け入る事が出來ない、齶の病が幾らからだを冒さうと思ッても、身躰が之に張合ふ處の力が强くあれば、なか〳〵冒さるゝものではない。ソレ故平常身體を健康にして、病に冒されぬやうにするのが、藥より何よりも肝要の事で御座います。

平常健康を計る小兒の衞生法に就て肝要なる事は專門の先生方より立派なる御話を度々御聽きになりまして、既に御承知であらうと思ひますが、序でゆゑ私も小兒の健康を保つに就て、大略の御咄しを致さうと思ひます。先づ第一に肝要の事は食物の注意、御召物の注意、御住所の注意、或は其近邊の御注意、次に適當の運動とか云ふ事が肝要で御坐います。其

中でも最も食物の注意が肝心と思ひます。小兒に御齒が一、二本御生えになりまずると、是れは最早固い物を食べさする爲めに生えたのであると云ッて、急に食物を與へる御方が有りますが、これは甚だ宜しくない事と申さなければならぬ。何故かと云ふに、今まで流動躰の乳の如きものばかりを召上ッた居ッた處に、急に固い物を食べると、兎角ソレから胃を悪るくするので、齒は物を咀嚼する爲めに生えるのでありますから、固い物を御上げになッても宜しいが俄に食物の性質を變へないで、段々に御上げにならなければならない。急に食物の性質が變ると病氣に爲り易いので御座います。

次に召物で、是れは申すまでもなく、清潔の物を着せなければならぬのは當り前の事で御座いますが、併ながら御當人に如何程清潔の物を御着せ遊ばしても、ソレに附いて居らるゝ方々が不潔の着物を召して御出でになッては少しも効はないが、之に關係する者は悉く清潔にしなければならない。ソレから住所も例へば大廈高樓でも、自然に空氣が不潔だとか、大氣の流通が悪るいとか、太陽の光線が這入らないとか云ふやうでは役に立ちませぬから、其邊に注意なさらなければならぬ。

次に精神を安らかにさせるのが、小兒には最も肝要の點であります、成るべく御休みになる時は靜かにして、餘り物に驚く事などのないやうに注意しなければならない。其休ませる方法も西洋では床を上から釣ッて、ソコに小兒を寐かせると、床を始終搖ひ動かすことが出來て、運動になッて大變に宜しいと云ふことを申しますが、併なから是れも餘り利益の有ることゝは思はれませぬ、運動と云ふことを申しますが、運動は、戸外運動を適當に致せば宜しいので有りますから、殊更にあんなものに入れて休ませ

んでも宜しい　ソレよりは矢張り日本固有の綿蒲團を厚く入れるとか、或は西洋臥褥の動かないものに寐かすのが宜しう御座います。其他抱寐の悪るいと云ふ事に就ては、既に御話が有りましたらうから、別に茲では申しませぬ。其外小児を叩きますが、此叩くのは御子様方が御むづかりでもなさると、御可愛い餘りにまるで鰻屋の團扇でもあるやうに、バタ〳〵と御叩きになりますが、斯様に御叩きになりましては自ら泣きの止まるものではない。ソレよりは静かに御膝の上に載せて、御擦りにでもなりました方が宜しい、何も脊中などをバタ〳〵と叩くには及びませぬ。是等は言ひ換へれば、精神の安寧を妨げる様なものであります。世の中が開明に進むに従ッて精神を静かにしなければならぬ。ソレでなくとも當今の小児は、智識の發達が早く、身體の發達が遅いと云ふ位ゐて、是れは西洋輸入利益中の不利益の事と思ふ。御子様方の智識を發達させても然程の利益は無いので、御小さい中は空々寂々に育ッて彼入つて、後來社會に立ッて充分の智識を要する時に、遺憾なきやうに育てるのが、母親の義務で有りますから、成るたけ小児の精神は安静に保たしめなければならない。ソレ故乳歯の出る時の病氣の御話しを致すと申しても、其養生法は、通常小児を御養ひになるのと別に異ッた事はない、詰り小児科の先生方に御尋ねになッて、其御説を採用さるれば差支ないと云ッて宜しい。其上で病氣が出ましたのは、御當人の御不幸でございますから、手前味噌を申すやうで甚だ恐れ入りますが、齒の病氣なれば、一應歯科醫の診察を御受けになる方が宜しい。併し若し全身病に係はッた事では。治療が出來兼ねますから、其時々何々の専門醫に、治療を御頼みになッた方が宜しいと申し上げます。兎に角成るべく早く小児をし

て苦痛を免かれしむるやうにするのが肝要で御座います甚だ不辯舌なる御話で定めて御退屈と思ひ升。

●尖首圖解　續前
第五圖は嬰兒に親ゆびをシャブらせ若くは空乳即ちゴム製の乳首等を強く吸入せしむることより遂に上顎の尖りて恰ヾ字形の如くなりし例を示したるものなり第六圖は第五圖の上顎を有するもの丶其容貌尖り易きを顯はしたるものなり

寄書

肺病者養生法（四）

醫學士　竹中成憲君

細菌的療法（并に其他内科に應ずる奏効疑はしきもの）

一「ツベルクリン」は肺病細菌より「コッホ」氏の製せしものにして初期に用ひて必らず効あり

一「ツベルクロチヂン」はクレーブス氏の製せる「ツベルクリン」なり

一「アレキシン」は「ツベルクロチヂン」如きものに對する總稱なり

一「アンチフチーヂン」と稱する藥あり「ツベルクロチヂン」を「ヲルトクレゾール」に溶したるものなり

一「ベンゾソール」も肺病の藥として傳ふ

一「アセプトリン」米國の醫師エドソン氏の製にして肺病に奇効あるが如く新聞紙等に記載したれども未た學者の協賛を經たるものにあらず

「テレビン」油多少効あるべし

沃度加里は肺病存在の有無を檢する爲め之を用ゆる事あり（スチッケル氏法）肺病の或場合に於ては効なきにあらさるべし

沃鐵舍利別は咯血せざるものは之を用ゆべし

「ヘレニン」肺病の藥なり多分効なかるべし

一「カンタリジン」酸加里は肺病の藥として傳ふ
一「バルサム」類は効ある事あり
一桂皮酸を肺病に用ゆるとあり
一沃度「ホルム」亦効能詳ならず
一「メントール」(薄荷腦)は多少効あり
一「チモール」は消毒劑にして本症に用ゆる事あり
一「ハゼリン」は止血藥なり

滋養的藥品

一鐵飴は含鐵麻爾都越幾斯に類するものにして大に宜ろし
東京銀座岸田吟香製、神戸横田孝史製(二週間分金四十錢)淺田飴(宗伯氏處方硬きもの)等あり舶來獨逸キ———ヘー氏製は上等なり
飴と「マルツエキス」との差は水飴は麥に「マルツエキス」の働きて生じたる砂糖類なり「マルツエキス」は尙醱酵素として働き得るものなり
「マルツエキス」は百分中三十の砂糖(マルトーゼ)百分の廿五の「デキストリン」を含むものなり
一滿俺鐵「ペプトン」は咯血せさる患者に良し
大坂北濱三丁目卅五番屋敷西山眞造氏製東京三井氏製故醫學士保利聯氏證明のものあり
一「アルロルート」は澱粉にして滋養物なり
一「アロイロナート」は植物性蛋白質にして良き滋養物なり
一「ロイペ、ケムメリツヒ、ユックス及デナイエル」の製造品は滋養品なり

民間療法

一鰻の骨を燻し其煙を吸込んで効あるといふも實際寸効なし
鰻やに肺病なく烟草やに「ひぜん」なしと云ふ晒木

綿やに「ひぜん」なきは事實なり晒粉は「ひぜん」の藥なればなり

一いぼたの虫は効なし

一鳩麥飴（大坂製二週間分五十錢）は飴の効あるのみ鳩麥は効なきものなり

一蒜、野蒜（のびる）（たかのつめ）韮（にら）等多少の効あるべし　未詳

一糸瓜の水肺病に効ありと稱すれども是れ單に多少發汗の効あるのみ

一松脂は素人之を胸の病に貼布するとあり多少學理なきにあらず

一土佐に人肉効ありとて之を實行して無効なりし例あり

吸入法

一吸入は藥品に據りて必ず効あり「クレオソート」昇汞、硼酸、薄荷等用ゆる方宜し

一吸入器は多く「アルコール」を以て熱すれども拙者の稱用する吸入器は木炭を用ゆるにあり

（東京日本橋區本町三丁目鰯屋松本儀兵衛之を製す代價一圓三十五錢なり）

一獅氏考案の吸入器も宜し

盗汗療法

一「アトロピン」は盗汗に効あり

一結晶樟腦酸は仝上の藥なり

一牡蠣も盗汗に効あり

一麥角も盗汗に効あり然れども本品は止血に之を用ゆ

一「ザルバイ」葉も盗汗の藥なり

一「からまつ」の葉は盗汗の藥なりとて煎じて呑む人あり

（未完）

臺灣婦人纏足の説明

臺灣天然足會の景况は前號誌上に掲げ置きしが同會は黄玉階外數氏の發起と兒玉總督後藤長官村上知事の奬勵と同島人との翼賛とによります〱盛况を呈せりといふ此擧たる二百有餘年の陋習を打破して改善の實を擧げんとのことなれば彼の泰西諸國の文明を誇るに拘はらずコルセットの害を緩うすることを能はざるに比すれば其勇氣や感ずるに余りありといふべし今や台灣も我が領土に歸し均しく帝國の臣民なれは同情相憐の情を以て此擧を賛助し同島婦人の慘劇を救ふべきなり

頃日在臺灣賛成員松住臨太郎氏より天然足會々報第一號を寄送せらる會報中纏足の詳細なる説明ありしをもて如何に纏足の弊害あるかを左に抄録せんとす

一　沿革

支那往古の詩書に美人を咏ずること多しと雖未だ稱して女脚に及ぶ者あらず宋書に男子方を履み婦人圓を履むとあり唐史揚妃の羅襪（羅布にて造りたる足袋）を稱し（太眞外傳貴妃馬嵬に死す一老嫗、妃の錦鞾襪一隻を得て客に過ふ毎に一玩す價百錢さあり）韓冬郎の詩中六寸の膚圓光緻緻とあるか如き都て纏足せざりしを證して明かなり（以上錢唐人袁枚の説）南唐李後主に至つて宮嬪窅娘なるものあり纖麗舞を善くす後主金蓮を造る高さ六尺飾るに寶物を以てし窅娘をして帛を以て脚を纏ひ纖小屈上して新月の狀を爲し立て金蓮上に舞はしむ南唐は江南の應天府即ち今の南京に都す江南人原と奢侈にして新調美色を喜ぶ嬋姸たる美容其脚を纖小して蓮歩遲々柳姿嬝娜を生するを以て市人愛して之に傚ひ相沿ふて風を成す嗣後九百餘年の間漸次四外に行はれて今や支那全省到る處風行し遂に牢乎と

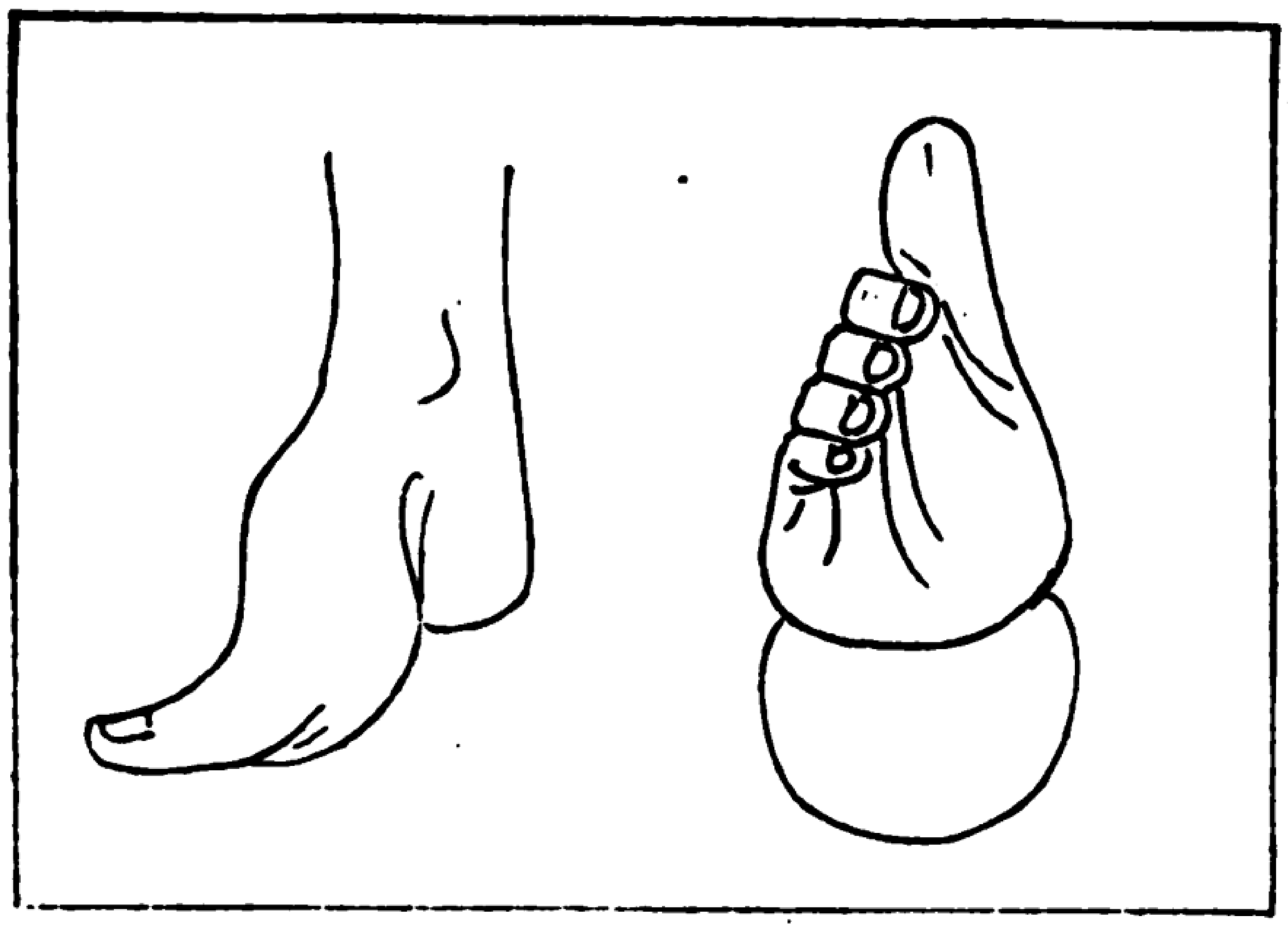
して破る可らさるに至る而して其俑を造る者は實に李後主の妃窅娘にして之に倣ふ者は江南の婦人其先を爲す然れ共東三省卽ち黒龍江、吉林、盛京、地方に在る滿州人或は支那邊境に位する蒙古、西藏人、回教民、苗族等に至りては絕て纒足することなし而して彼等か斯風に染まさる所以のものは彼の漢人と稱する支那一般の人種と言語習俗を異にせるの故ならん歟漢人種と雖到る處多少の不纒足地方あり中にも廣東の如きは其最たるものにして省城たる首都に於て纒足するの外地方に至りては殆んとその行はるゝを見す

臺灣は雜處の地にして對岸福建省、泉漳二府の民最も多きに居り廣東人之に次ぐ全臺の人口を以てすれは廣東人十一に過ぎすして彼等は殆んと裹足の風なしと雖も自余地方の婦人に至つては悉く斯風に染むと云ふを妨げす然れ共此の間亦多少の區別なきにあらず彼の泉州府五縣二州の內晉江、惠安の二地及び漳州府、七縣一廳の內各城市を除きては概ね裹足の風なし而して彼等か臺灣に移住落籍するの後と雖も亦故籍の習俗を襲へり彼の福州及ひ興化地方人にして本島に來住する者ありと雖一は商と爲り一は勞役に從ひ共に部落を成すに至らず又浙江、江蘇、安徽、湖南等各省の人に至つては寥々記するに足らず之を要するに臺灣婦人中纒足せるもの其八に居り斯風熾んに行はるゝの地なりと謂ふ可し

二 纒足の方法

纒足の習風ある家は貴賤貧富に論なく競ふて女子の足を纒小し唯だ其小ならさらんを恐る俗に纒足の美を稱して三寸の金蓮と云ふと雖も其實尙之に及ばざるあり玆に纒足の方法を細說せんに女子早きは四五歳遲きも十二三歳に至れは先つ拇趾を基準として他

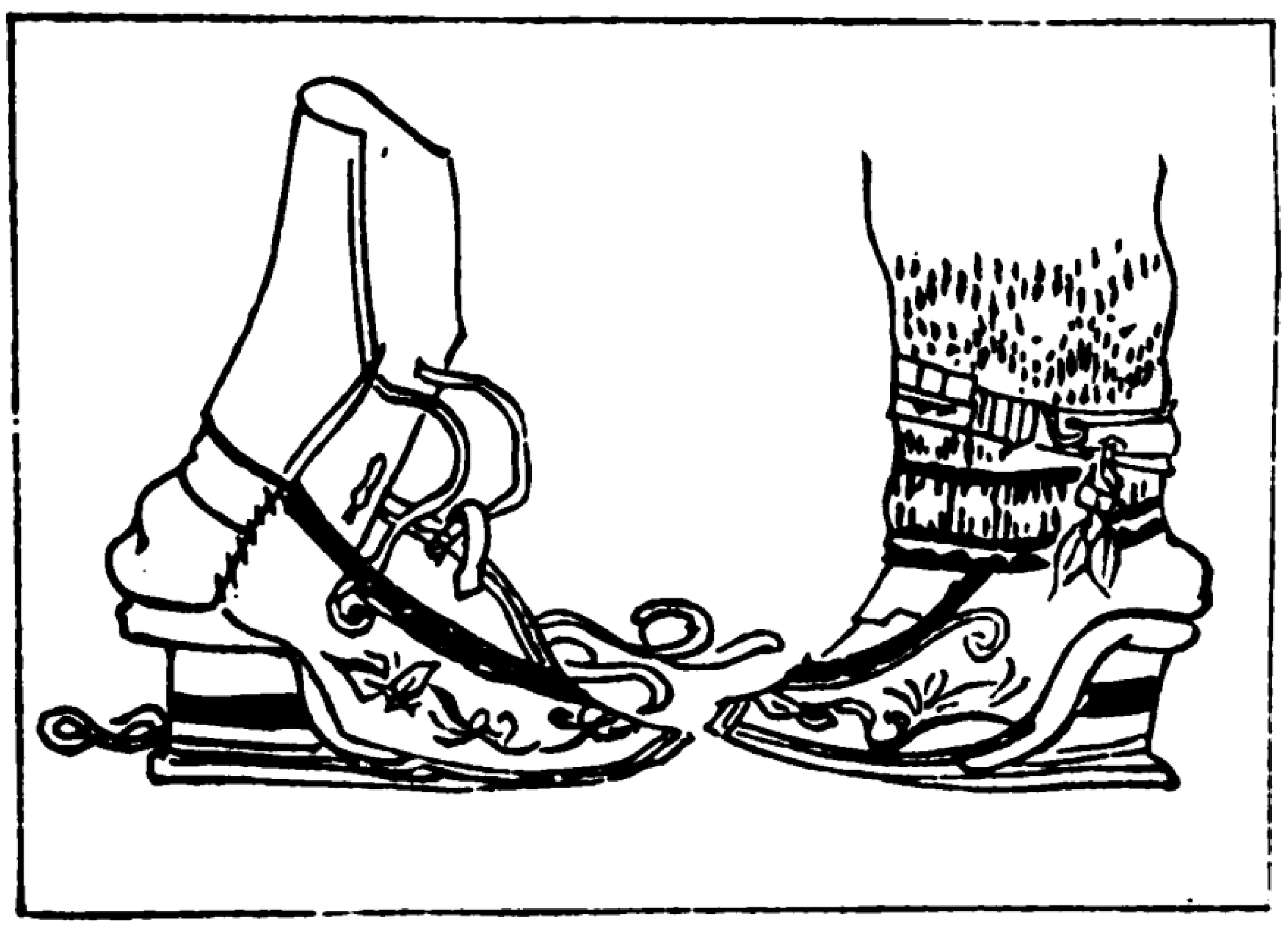
の四趾及ひ之に連繫する蹠骨、楔狀骨共に强度の蹠面屈折をなさしめ恰も内反馬蹄足の狀を呈し（蹠面の折線深くして能く一厘錢を藏するを得る者あり）



蹠面の圖

内側面の圖

各關節は脱臼若くは半脱臼の狀態に在り足蹠は爲めに甚しき凹陷を呈し足背は著しく彎隆するに至る故に各趾節は極めて薄弱にして爪甲の如きは只た痕跡を留るのみ之に反して足背より見る時は一拇趾を存するのみにして其發育は比較的佳良なり而して吾人々類の直立又は歩行するに當りては足蹠に三個の重點支掌部あり以て中心を維持すると雖も此の非生理的の纏足に依り外側の一支點を失するのみならず跟骨部及ひ拇趾莖底に在る矢狀線内の二點も變形の爲め其支撑力甚た薄弱と爲り行歩蹣跚たらさらんと欲するも得ざるな



繡鞋を穿ち脚環膝袴を付けたる圖

繡鞋の圖

り之を行ふに當りては脚帛幅二寸余長さ五尺許（大なる者は幅三寸余長さ一丈五尺あり）を以て足の前後及び中部を緊束し蹠面の屈折點に約す此の如く爲したる後華麗なる繡鞋を穿しめ鞋後厚布を縫接して足首の後に配し繡鞋の兩邊に襻を付け帶を通して足首に捲着す或は脚上膝袴なるものを穿ちて華繡を施し鞋上を飾るあり或は脚環を入れ鈴又は鐘皷の形を付して響音を愛するあり然れ共此等は中

等以上の家に多しとす足蹠凹陷し足背穹隆して前底下に向ひ踵部との平衡を得ざるを以て踵下繍鞋の間に高さ一二寸の木片を挿入して脚底の平均を保ち以て歩行に便す　（未完）



皮膚病の話（第二）

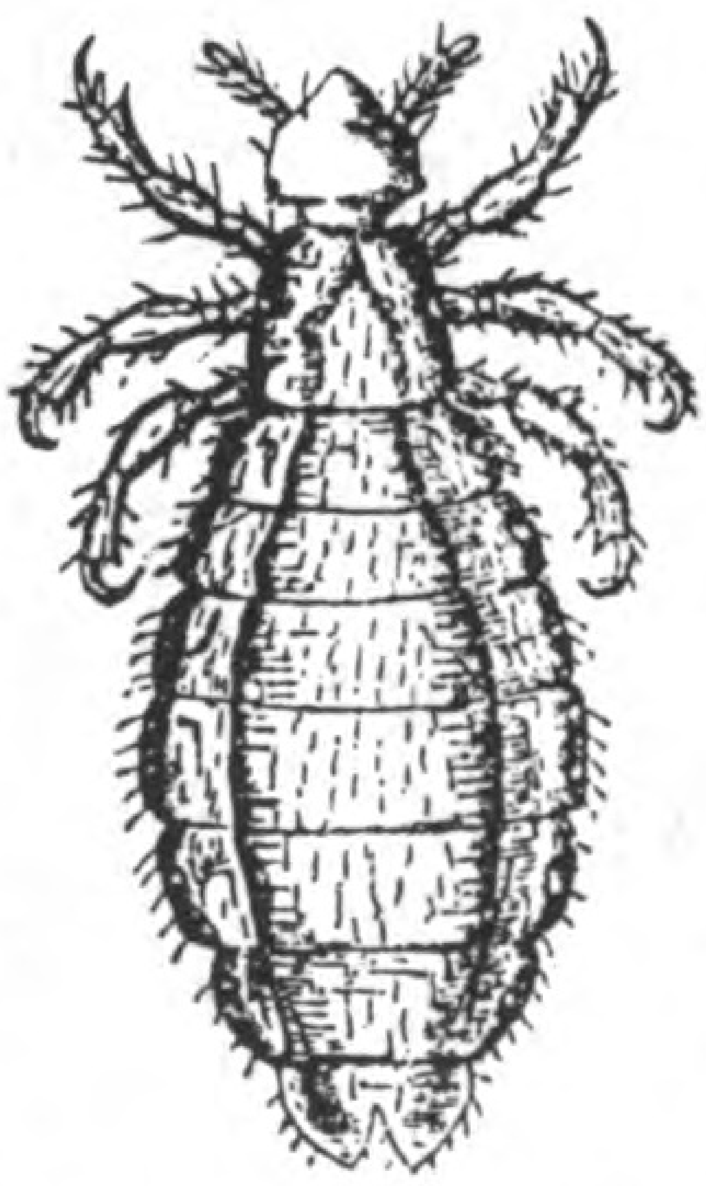
在大學　T.　S.

虱

虱と云ふ中にも色々種類ありて頭に寄生するを頭虱と云ひ衣に寄生るを衣虱と云ひ耻部に寄生るを耻虱と云ふ也此中頭虱と耻虱は共に毛根に寄生し毛に卵を生み着け衣虱は常に衣服中に潜伏し其皺皮に卵を生着くる也

頭虱

頭虱は其色灰色にして其形細長く六本の足を有し體は七節より成る雌虫は毛根を攀りて之に卵を生み着くる也虱が頭に寄生せば瘙痒甚し

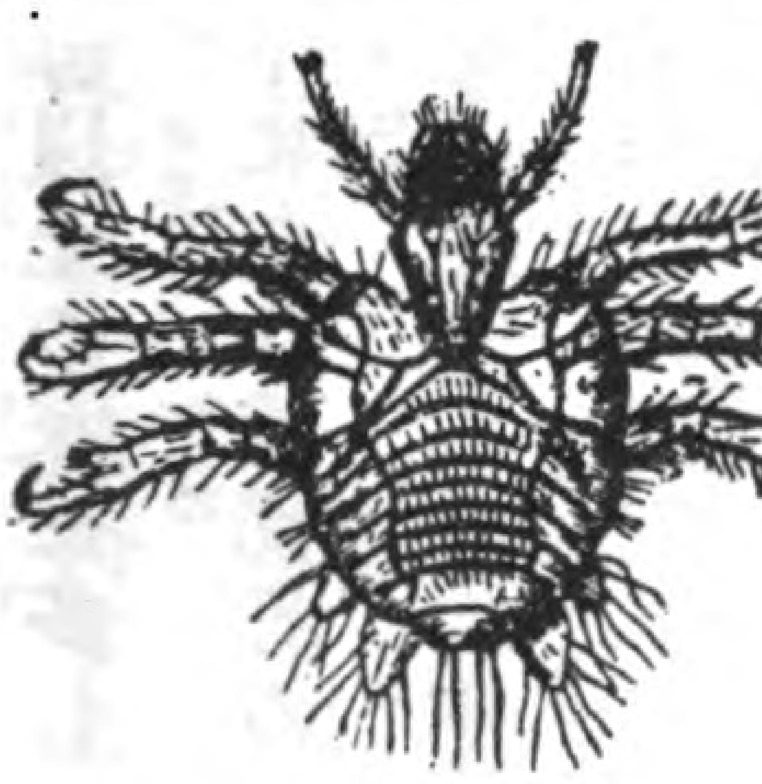


く止を得ず之を抓くが故に此處に濕疹を生じ膿疱も出來れば痂皮も出來患者は爲めに夜間も安眠することを得ず甚しきに至りては首に淋巴腺腫脹を生ずるに至ることあり

頭虱は主に頭虱を有する人に觸るか之等の人の用ひし櫛等にて梳る如き際に寄生し殊に不潔なる頭髪には取分け好んで寄生する者なれば之等の點に注意し若し家人中に頭虱を患ふる者あれば速に

治療を加へて病根を撲滅すべし

頭虱の治療中最も有功なるは石油、阿列布油及び「ペルバルサム」の合劑にて（調劑は醫師に乞ふ方安全なり）之を朝夕頭に塗りて後布にて頭を包み置く中は二日斗にて虱は死すべければ櫛に酢を浸したる者にて之をかき落す時は數日にして全く之を去ることを得べし尤も後に殘りたる濕疹其他の者に向つては適當の膏藥を塗り置けば可也



恥虱

恥虱は其色蒼白にして且つ毛根元に其頭を以て穿入り居るが故に容易に之を見出すこと難し瘙痒の劇しきこと濕疹を生ずること等頭虱に劣らず治療には「ナフトール」石鹼「ペルバルサム」昇汞醋酸等種々あれども素人療治は危險なれば醫師に問合すべし衣虱は頭虱に比すれば大にして黃色を帶び常には襦袢、シャツ等の如き身躰に密着する者に住居し時々此住居より皮膚の上に顯れて直逃し食物を探し歩む也瘙痒の劇しきこと濕疹を生ずること等は他の虱と同し殊に衣虱は速に之を除去らざれば種々の皮膚病の原因となり或は皮膚の膿瘍を造り或は疔等を發生せしむること少しとせず

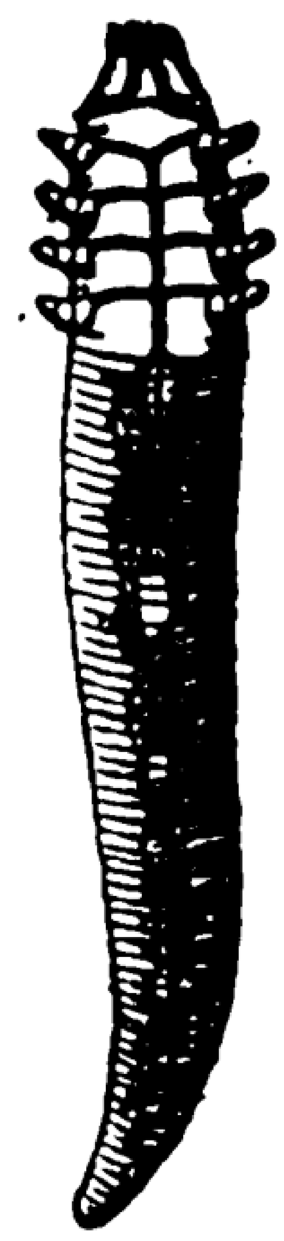
治療は速に衣虱の寄生せる衣類を脫ぎ去り之に熱湯を注ぎて殺虫すべし皮膚に殘りたる濕疹等は速に醫師の治療を受くべし

にきび

粉刺は年頃の人に尤も多く來る皮膚病にて天然の麗色も爲めに其光を失ふこと屢々也此病の成立に就ては色々の說もあれど歸するところ脂腺及び其

輸出道の疼痛にして殊に慢性の消化不良便秘貧血等を患ふる人に最も多く發生するが如し其他沃度劑臭素劑等を運用せし場合にも生ずることあり

粉刺の最も多く生ずるは顔背部等にして之を壓す時は白き虫の如き者の出つるを見るべし之れ脂、角質等の變化せる者にして之を「コメドー」と云ふ、時としては此中に毛囊虫と云へる細長き虫の



存することあり粉刺は赤膿を持ちて爲めに疼みを感することあり亦屢々瘙痒を感ずることあり之等に充分の治療を加へざれば瘢痕を殘して悔るも及ばさる醜姿を呈することあり

治療は先づ消化不良其他の病あれば速に之を治療すべし局所には重症なれば朝夕「ナフトール」石鹼、或は硫黄石鹼、加里石鹼の如きにて充分洗ひて後「ナフトール」、硫黄等を含める膏藥を塗付し置くべし（勿論之等の藥は醫師より貰ひ受くべし）輕症なれば夜分のみ十%の硫黄軟膏を塗り毎朝之を洗ひ落すべし又「クンメルフェルド」氏洗滌水を塗り置くも可也

玆に注意すべきは硫黄を含める藥品を使用する間は決して白粉の如き鉛を含める者並に水銀を含める藥品を使用せざることと之也

限局性禿頭

限局性禿頭と云ふは頭の諸所に禿部を生じ追々廣くもなれば亦其數も增し行く者にて此病の起る原因に就ては或は神經性の者とし或は何か一種寄生虫性の者なりともなせども兎に角二ッ共に此病の原因となる者と見る方穩なる如し殊に散髮等の後に發生すること屢々なるによりて見れば其寄生物によりて發生することは疑ひなきが如し

此病の發生するに當りては或は頭痛あり或は躰の倦

忠を感じ或は食慾減じ或は禿げべき部分に異常の感覺を呈するが如きことありて後此部分の毛髮脫離し終に禿頭となり甚しきに至りては全頭一毛も止めざるに至ることあり此病は唯に頭髮のみを犯すにあらずして眉毛も鬚髯も亦犯さるゝなり一旦此病に罹れば治癒すること難く時としては充分の治療を施すにも係はらず遂に再び毛髮を發生せざること少しとせずされば成るべく斯かる病に傳染せざる樣注意すべき也、之れには散髮屋の機械、女髮結の用ゆる櫛等に充分の消毒を施さしむるの外なき也東京府下の如きは近年に至り散髮屋に於ても機械を消毒することゝなりたれば此種の病も追々減少することとなるべし治療には種々の藥を用ゆれども之と云ふべき特功藥なし先づ昇汞「アルコール」を綿に浸して禿部を摩擦して後石炭酸及び「ザリチル」酸の軟膏を塗擦するが如きは先づ良法の一ならんか

ほくろ

痣は生れつきに皮膚の一部に色素が多く集まりし者にして只皮膚の一部に黑き斑點となりて存する者もあれども亦其表面隆起して乳頭狀をなす者も有り時としては痣より表皮癌等の如き恐ろしき腫瘍を發生することも有れど多くは無害の者にて其儘になし置くも差支なけれども痣の存する場所によりては頗る容姿を上下し殊に彼の泣き痣の如きは人相上頗る人の忌む者なれば速に之を取り去るを可とす痣の療法には以前は石炭酸、發烟硝酸の如き劇藥を用ひたれども今日にては或は電氣を用ひ或は針狀燒灼器を用ひて之を治療することゝなれり蓋し此法によれば患者の苦痛も少く結果も亦好良なれば也

狂犬病

狂犬病は本年一月來流行し狂犬の爲めに咬傷の害を被むる者多く遂に警視廳は該病に關する告諭を發することゝなりたれば(前號參照)玆に狂犬病の大要を述ぶることゝなせり

抑も狂犬病と云ふは本來犬の種屬に流行する病にして犬のみならず狐、狼の如きも亦之れに罹り若し此病を患ふる犬、狐等が人は勿論猫、馬、羊等に嚙み付けば此嚙付かれたる動物も亦狂犬病に罹るなり

倘犬の狂犬病に罹りたる時は如何なる有樣となるやと云ふに犬が此病に罹れば其性質一變し今活潑なるかと思へば直に穩となり又直に怒り出たすと云ふ次第にて眠むる間も落付くことなく食慾は減じ木片、藁、毛等の如き平生は寄付もせぬ者を食はんとし暫くすれば忽ち怒りて驅け廻りそこらあたりの者に嚙付き吠ゆるにも一種特異の聲を出し遂には食物は勿論水さへも飮み難き有樣となり斯くすること二三日にして歩行困難となり歩むも後足を曳き摺ると云ふ有樣となり遂には起き上ることも出來ず漸々に痩せ衰へて發病後凡そ五六日乃至十日位の中に斃るゝを常とす

人間に最も危險なるは前に述べたる犬がやたらに嚙み付く時にて此際人が知らずして狂犬に近けば不意に嚙付きて狂犬病を傳ふる也されば犬の飼主は警視廳の告示に從ひ危險なき樣充分の注意を怠るべからず次に人間に狂犬病の傳はりし場合には如何なる症狀を呈するやと云ふに咬傷を被りし後早ければ三四日遲き時は二月位を經て創の部分に痛を感じ此痛は漸次上に昇り來り創の跡は別に變化を呈せざることも有れども亦時としては創より出づる膿は減少

し創緣は紅く腫れ上り創の肉芽は水腫樣となり又已に瘢痕となりし創にては此部分が紫色となりて多少腫上ることあり、之と同時に患者は物事に感じ易くなり僅の事にも怒氣を帶び又非常に元氣なく鬱ぎ込み、食慾は減じ脈も亦早くなり如此事一二日にして患者は頗る恐怖の狀を呈し光りたる者を見るとか或は高き音等を聞けば直に暴れ出し其狀恰も狂人の如し、又水等を呑まんとすれば咽頭に痙攣を起して之を妨げ遂には凡ての食物を呑み込むことも能はざるに至る、狂犬病を亦恐水病とも云ふは上に述べたる如く咽頭痙攣の爲めに獨り水を飲む能はざるのみならず水を見れば直に此痙攣を起して苦むが故也、已に此時に至れば熱も高く全身の筋肉にも痙攣を起し患者は增々疲勞し冷汗は全身より流れ出で口よりは粘き唾を出し呼吸は頗る困難となり患者は遂に甚しき苦痛の爲めに斃るゝを常とす

狂犬病は實に如此恐ろしき病なれども咬傷後速に充分の手當をなせば狂犬に咬まれたりとて必ず狂犬病に罹る者に非らず故に不幸にして咬傷を被ることあれば速に醫師の許に馳せて其創を治療し毒の深部に入るを防ぐべき也

以上の外狂犬病の治療には「パステール」氏の發見に罹る豫防接施方なる者あり其成蹟頗る顯著なるが如し兎に角之等は素人の爲し得べき業にあらざれば一刻も早く醫師の許に馳することぞ肝心也

中外彙報

◉學門と躰格

健康なる精神は健康なる躰軀に宿るとは古來の金言にして諸姉の熟知せらるゝ處なるが我が當局者にも此點に就ては充分注意するところありて學校には其高等なると初等なるとを問はず皆躰操の科を設け文

部省には特に學校の衛生に關する課をも設けられたることながら新刊の教育時論所載の昨卅二年東京市徴兵適齢者四千五百六十三人中の甲種合格者の百分率を見るに左の如し

馬夫	六十七人	船乘業	六十六人
僧侶	五十八人	農夫	五十二人
職工（石工木工等）	五十一人	雜業	四十九人
脚夫	四十七人	商人	四十人
職工（料理人散髪人）	三十七人	職工（裁縫師靴師等）	三十四人
無職業	三十六人	職員	三十五人
醫人	三人	學生	一人

右の表によるときは何人も學生に合格の少きに驚くべし、勿論之れには學生の一部は兵役猶豫の特許を得て志願兵を志望する者あれば亦軍人志望にて幼年學校兵學校其他に入學する者もあるによるならんと雖も兎に角學生に躰格不良の者多きは爭ふべからざる事實也其原因としては或は學科の過重に歸する者もあれども衛生の點に於ても亦注意の届かざる處ありしによらざる可らず而して學生の健康は單に學校に於ける衛生上の注意にのみ關する者にあらずして家庭の衛生も亦非常の影響を有する者なれば家庭の母たる諸君は充分此點に注意することを望む

◉體力養成の方法

山根正次君が日本體育會に於て述へられし體力養成法を抜萃せば左の如し

一滋養ある食物を多量に喰ひ營養を取ること（牛、肉、牛乳は最もよし）たとへば滋養に富まさるも强食すること

二運動をすること但し家の內外を論せず平均に其方法を講ずること

三就學年限を延長するか（現今の就學制度を八歲にするか）又は日課を減ずること

四父兄たるものは兒童の動作に注意すること

五若隱居の弊を打破すること

六早婚の弊を打破すること
七近親間の結婚を廢止すること
八少年は飲酒喫烟手淫を嚴制すること

◉横濱にペストの襲來

本月二日横濱に入港せしピーオー滊船會社滊船ロッツク號の舵手非律賓人ロバート(三十四)なるもの去る九日より身躰違和を覺へ同船醫の診察を受けしも病症判然せざるより水上警察署に臨檢を求めしより檢疫官出張臨檢せしに躰温三十八度八に昇り右足鼠蹊腺に腫脹れり一は鷄卵大一は稍小なり依りて局所の淋巴液及血液を檢査せしもペスト菌を發見せず一昨十日再診の際も矢張菌を見ざりしも疑はしきより船客に注意し置き又午前十一時三たび診察せしに躰温三十九度二分脉百至腺非常に腫張せしより血液を檢疫せしに夥しくペスト菌を發見し同十二時柴山傳染病研究所助手ペストと確診せり患者は午後三時遂に死亡せり死躰は船と共に長浦消毒所に廻送し火葬に附し船は充分なる消毒法を命じたりと云ふいよ〱横濱にペスト襲來せり此際各町衞生組合を設定し充分の注意なくして可ならんや

◉傳染病豫防委員職務概要

ペスト豫防の爲め設置せられたる該委員の職務概要左の如し

第一條　豫防委員は市内ペストの豫防に從事するものとす

第二條　豫防委員は明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法並に同年内務省令第十一號傳染病豫防法施行規則に依り事務を取扱ふべきは勿論の事左の事項を視察すべし

(一)ペスト患者發生せし場所等を巡視し隱蔽患者の有無を視察すること

(二)交通遮斷區域内の各戸を巡廻し豫防消毒方法の適否並に感染者の有無を視察すること

其一　ペスト患者の系統等を周密調査し撲滅の方法を圖ること

其二　貧民部落及不潔の場所等を巡廻し汚物堆積の有無を視察すること

其三　鼷鼠の有無に注意すること

其四　豫防上の點に注意すること

第三條　醫師より出る豫防委員は擔當區内ペスト發生後は日々區役所に交代詰合ふこと
第四條　豫防委員は召集に應し市役所に出頭すること
第五條　ペスト患者發生前は毎週二回區内を巡視すること
第六條　視察及執行したる事項は翌日區役所を經て市役所に報告すること
但至急を要する事件は即日報告すること

●埼玉縣に於ける産婆試驗

埼玉縣に於て去月産婆試驗を擧行せしが及第者は西村せん子一人なりしと其問題左の如し

試驗問題

一骨盤上口の各經線　二頭蓋底の產路を通過する方法　三陣痛微弱　四會陰保護術　五臍帶の處置　六假死の蘇生法　七温罨法及冷罨法の製法　八分娩時出血　（以上筆記試驗）　一正規分娩取扱法　二産婆産婦の消毒方法　（以上口述）

●學位授與

本會の贊成員醫學士岡田和一郎君には先頃獨逸より歸朝せられしが此程論文を提出せられ醫學博士の學位を授與せられたり

●山根第三部長の出發

全本會の贊成員なる醫學士山根正次君には防疫課長野田忠廣氏と共に本年佛國巴里に於て萬國衛生及びデモグラフィー會議萬國醫事會議開設に付委員被仰付去る八日出發せられ本會よりも見送をなせり尚同君は會議決了後獨逸外二三國を歴遊視察せらるゝよしにて歸朝後は本會への出演を承諾せられたり

●大阪府屠牛

大阪府下に於ける各屠畜場に於て食用の爲め屠殺する牛は洋種耕種とも肺結核に罹り居るもの往々之あり其筋にては相應の取締を設け居る事なるが其全く食用を禁じたるもの幷に局部の廢棄（內臟の廢棄）を命じたるものは左の如しと

	食用禁止	局部廢棄
三十年度	三百九十頭	二百二件
三十一年度	八百三頭	四百九十二件
三十二年度	四百四十四頭	二百五十三件

●各種傳染病數

去る一月一日より去十日までの各種傳染病患者の

累計は左の如し

虎列剌　無し　赤痢　五九　腸窒扶斯　一八八
痘瘡　二　發疹窒扶斯　無し　猩紅熱　六
實扶垤利亞　六二九　總計　八八四

●惱中に彈丸三年間

佛國の名醫モンドール氏は近頃大手術を施して三年七月間惱中に横りたる一彈丸を秡き取りたり患者は三年以前に惱に三箇の彈丸を受けて其當時二箇迄は抜き取りたれど他の一は其儘に存したるも身躰に特殊の異狀なくて只記憶を損したるのみなりしが今回の手術により舊に恢復するを得たり彈丸は上面より一時餘下に伏在したり去れば目下佛國醫界に於ては障碍物と人躰との關係に就き大に研究しつゝありといふ



●芝區南佐久間町質商横倉某方にては其の雇人十名恐く腸窒扶斯にかゝり目下自宅療養中なりと一時はペストなどゝ言ひ囃し騷ぎしよし●赤痢も追々發生し麴町平河町には一家三人何れも赤痢に感染せりといふ●ペストの驅除品は懸賞によるも名案なきが亞砒酸及燐を使用したるに一番好結果なりしと●神田万世橋の傍講武所の賣藥店にある鼠とり藥はよく鼠を驅除するに効ありき●麴町山元町板倉某の次男(二ッ)は火鉢の抽き出しにありし染粉を嘗め九死一生を得たりとのことなるが親々の注意緊要●府下に此頃ジフテリヤ流行の傾きありて殊に

芝區尤も盛なりといふ●赤痢も又流行の兆あり小兒の罹るもの多しと現に內藤新宿麹町等に數名の患者あり梅雨にさしかゝりし折柄豫防注意●北里醫學博士外三氏は今回大阪地方へ出張を命ぜらる豫て血清藥院にて製造中なりし注射液實施の爲めなりといふ●凡麥めしを造くるに麥をよく煮よく洗は通例なるがカクては滋養分を洗ひ去るが如きもエマシ麥の表面は糊化せるを以て其患ひ少しといふ●帝國第十八統計年鑑によるに九十歲以上百十歲迄の長壽者男子は六千四百八十八人にして女子は一万千五百十三人にして女子に長壽者多しと萬歲々々●山形第三十二聯隊にては結核豫防の爲め酒杯の獻酬を廢止したりとドウか一般に斯くありたきもの●滊車停車の際賣りに來る辨當、鮨、酒、菓子の類は往々腐敗せるものを賣るもの鮮しとせず今や暖氣に向ふ折柄殊更に注意々々●用明天皇の時聖德太子猶を祭りて惡疫の撲滅を圖りしと時恰も支那に疫病流行せる頃なりしとペスト流行の折柄參考の價あり●娼妓の年齡は先頃制限されしが又賣淫婦の取締は今二十日より嚴重に取締るべしといふ●下谷の玩具屋鈴木某は土製人形の着色に雌黄唐紅を使用し神田多町の問屋に賣り込む所を神田署の爲めに發見さる●此頃旅人宿に對する豫防注意を旅人宿に說諭せりとの事なるが殊に夜具蒲團の如き何れの宿屋も白布を覆ふことゝし時日を定めて洗濯することに規定せられたきものなり●日本產婆學協會は去月二十日第一回總會を開きしに二十餘名の演說者と百數十名の來會者あり極めて盛會なりしといふ

●本月は記事輻輳の爲め養生訓及食物料理を休む
●次號よりは普通看病法に就て續載することゝ致し候

大日本婦人衛生會記事

本會五月例會

●五月九日第二土曜日午後二時より麴町區上二番町女子學院に於て本會の例會を開きたり會場はミッセスガァーヂナァー氏の注意によりて生花盆栽等を壇上に裝置せられたり當日は學院の例により潮田千勢子の祈禱に始まり同學院櫛部ゆき子のピヤノ彈奏(マグダウェル氏作曲ポーエム)及び福田とし子の獨吟(プレイス、ノーツの曲ミッセス、ガーヂナァー氏彈奏)次に本會委員の口演あり午後二時半總裁　小松若宮妃殿下には御洋裝にて御臨場あらせらる一同起立敬禮此際學院生徒はピヤノの彈奏に和して君ヶ代を三唱す次に福田とし子再度の獨吟あり美妙の優聲は聽衆をして轉た感に堪へしめたりき右終り幹事鳩山春子には當日の講師たる米國ハーバート大學卒業のミス、ベーコン女史を會員に紹介し且亞米利加人種の上に於ける二ツの問題に關して演説せらるゝ旨を述べらるゝやベーコン女史は多年研鑽せられたる米國に於ける人種問題に就きて滔々二時間に渉る大講演あり女史が流暢なる辯と明治學院總理井深梶之助君の明快なる通譯とにより二百餘名の聽衆をして聊かも倦ましめざりき講演終りて役員西升子には本會々長代理として新潟支會創立五周年紀念會へ出席せられたる概況を報告せられ午後五時頃散會せしが當日は米國公使夫人を初め外國貴婦人二十餘名仁禮會長濱尾副會長幹事鳩山西靜子穗積歌子高木かう子宮下松平芳子、評議員濱田捨子西升子岡田德子中濱よし子等參會せられ學院生徒若干名も

加はりて近頃になき盛會なりき倘女史の演說速記は他日本誌に載せ得べけれども今其梗概を左に掲ぐ

我米國に於ては日本の如き一種族の人種によりて組織せられたる國にあらざれば勢ひ人種上に於ける種々の問題も起るなり而して今日は予が直接に關係を有したる二ッの種類に就き御話申すべし一ッはコロンブスが米國發見の際に其地に居住したりし土人、此土人と歐州より移住したる殖民とは其文野の度遙かに相違あるを以て如何にせば同じようなる生活をなし又相互に生存共通することを得べきかと云ふが人種問題の始めなり今一は殖民地の開墾若くは工業等に人手を要すること多きが爲に亞弗利加黑奴を連れ來りて之を使役し延いて南北戰爭となり其結果四百餘萬の奴隷は悉く自由の身となりたれ共扨て開放を得たる上にて彼等は如何にして衣食し如何にして身を立つべき乎彼等は他の命を受けて働くの外必竟何等の思想も敎育もなし之をして米國の良民たらしむるには如何なる方策に據るべきか是亦米國に於ける人種上の大問題なりと說き起しその歷史現狀境遇等を巨細に陳べ盡くして最後にアームストロング將軍が黑奴の爲めに建設せられたるハツトンの學校の有様及び卒業生の現況同將軍の偉績等を稱へ要するに人種のことは頗る困難なる問題には相違なきも正しき方法を以てすれば之を解釋する敢て難事に屬せざるべし云々と結論せられたり

此演說たる婦人衞生には直接關係なきも人種問題は又關接に人々の心得置くべきことにて又研究の一價値ありといふべし

●本會五月例會々場として女子學院借用の事に就ては同院矢島揖子の斡旋不少尚當日は三谷某子の萬事何にくれとなく便宜を與へられ萬謝に堪へざるなり

●又同會日には潮田千勢子ミッセス、ガアーデナアー楠部ゆき子福田とし子諸氏の本會の爲め夫々盡されし厚意を玆に鳴謝す



●新潟支會五周年紀念會

本會の新潟支會は本年恰も創立五周年に相當せるを以て去る五月九日正午より新潟市なる有名の行形亭に於て開會せり本會よりは會長代理として西升子參會せらる（其景況は西氏の紀行文に詳なればこゝには其大略を掲ぐ）席定まるや支會顧問なる高橋辰五郎君には支會五周年の祝事に付開會の旨を述べられ續いて講師田代、長谷川、の兩氏及び副會長小池きく子本會の西升子諸氏の祝辭挨拶等あり餘興には手踊名物盃おどりの催ありしといふ此おどりは樽のはやしとて古へより新潟著名のものにて三ッ割程の樽底をたゝき笛を吹き可憐の女兒大小十五人程均しく團扇をもちて踊ることにて東京人士には珍らしく面白きものなりしよし其他長唄清元等數回ありて中々に盛會なりしといふ

●會長代理西男爵夫人の當日席上に於て述べられし挨拶

此度私が御當所に參りました次第は只今高橋さん田代さんより委細おはなしになりましたから別に申上ませんが皆樣に始て御目にかゝり其景況も荒増し承知致しましたが支會がなり立ちましてわづか五年の幼稚にしてかく會の盛なるは感服の外御座いません此趣を歸京の上本會へも委しく報告致します心得に御座います本會におきましても定めて滿足の事と存ます尚此上とも將來ます〳〵此會

[illegible]の永續致し盛に趣かんことを希望仕ます今日は皆様に始て御目にかゝりしにも拘はらず誠に御懇親に厚き御もてなしにあづかりまして誠にありがたく存ます心に思ひます半分も愛で述べますことの出來ませんのは天保時代の老人とよろしく御すいさつを願ひます云々

●西升子の令兄にもこたび同行せられ園遊會にも出でられしが金壹圓を寄附せられ左の一首を寄せられしといふ

●婦人衞生會の新潟支會園遊會に接して

身をきよめ家をきよめて心をも
いさぎよくこそよにはすまはめ

七十六叟審判

●新潟支會六月例會

六月三日第一日曜日例會を新潟市なる帝國婦人協會支部女子工藝學校に於て開き撫養圓太郎君には急救療法に就き中村勇三郎君には歯科に就ての講話及湯原元一君等の演説あり工藝學校生徒一同も出席して盛んなりしと尚本月下旬には同支會慈善部に於て慈善販賣店を出すの豫定なりといふ

因に記す帝國婦人協會の女子工藝學校は此頃赤十字社看護婦養成所階上をかりうけ大に評判よろしく市の重立ちたる娘方もぞく／＼入校して今日にては五十五名の生徒となりて日々に増加せりと支會中野主事の通信中に見えたり

新潟支會々長

同支會々長は勝間田夫人の御轉任により欠員なりしが今般新任せられたる新潟縣知事夫人千頭總子は爾後本會の新潟支會々長たることを承認せられたり

新潟行日記

此日誌は本會役員西升子の新潟支會へ赴かれしとき手帳に扣へられしものにて本會の請ひに任せて與へられしものなり

五月六日晴たり午前七時十五分三十間堀宅を出たつ上野停車場に到るに濱尾さく子君田中ぬし見送とした來たまふ程なく滊車は出て十四め停車場高崎につきぬ爰にてのりかへるかるひ澤トンチル廿六あり此わたりは桃櫻山吹今を盛と咲ゐたりまた七つ八つ停車場ありて長野へ六時半過につき肩やといふにやどりぬ夕食後善光寺まうつかへりしは十時過なりき

七日晴午後曇長野一番六時二十分發にて七つめ直江津なり爰にて北越鐵道に乘かへる此所よりこしぢの海みゆる。はつ崎。此間トンチル七ッあり青海川、柏崎、安田、北條の間トンチル六つありしぶみ川橋落たりために十一町あまり車にて先なる汽車にのる爰より停車場十一め沼たりにており小野えつ子君うれしと見れに副會長幹事評議員諸君出むかはれたり人々ともに人力にて一里たらず來り新潟營所通り一番町湊館といふにおないゝたされける其夜は當所産科婦人科院長高橋辰五郎君しつ子君同道尋ねられ衞生會の事何くれと物語られきかへらるゝ頃より雨ふり風もつよくして夜も快寢せさりし

八日雨後晴、風つよく灰のとき砂吹たつる事東京より一きはつよし明日は懇親會を開くに付滯在してとの事に付午前はゑつ子君方に參るそれより白山公園を廻り十一時過宿にかへりぬ午後はゑつ子君來り同道して副會長小柴キク子方幹事池原キン子方にも參り昨日出むかはれし挨拶のぶ夜は講師相談役なる田代亮介君えつ子君同道來られ衞生上の事に付種々くはなされたり此方にはいつれも會の事に付き何くれとなく盡力せらるゝよしなり

九日曇天午後雨少しくふり風つよし今朝は婦人協會所を一見す開てより日淺しといへと四十五名の生徒あり宿にかへりしに幹事方みな〳〵きたられ十二時過より當所にて有名なる料理や行形亭といふに案内せらる庭園の搆造よろしく風景にとめり都にもおまたおらざる所なり人數の揃たるころ高橋君立て衞生會支會立つてより五年の祝事並に本會よりわれらをおこされたりとの趣をのへられつきに田代君長谷川君副會長きく子君此度本會よりわれら總名代としておこされたる趣を演述せられたり餘興として手踊名物ぼんおどり等の催しありなほ辨當くわしすし名々に出され庭前にしるこみせあり繁昌に見受けし五時頃散會されたり夜は副會長きく子君幹事きん子君ゑつ子中村直子君來らる

行形亭にて

人みなの心つくしにふるさとの
　ことをもわすれてまとふけふかな

十日曇天後晴、風つよし

今朝一番にて出立のつもりの處諸君のしひてとはるゝにまかせ二番發にて歸る幹事部議員十名斗旅館より停車場まて送られたり

新潟支會の役員はた講師の方々といひ始めてあひしにもかゝはらすいと〳〵懇親にもてなされし事旅中のうさもわすれ嬉しき事かぎりなしさるからに今二夜三夜とゝまり度き心ちせらるれといかにせん行先に待人のあれはそれにも心せかれて立出たり世の中はいづくもかくあり度事にこそ

笛の音におどろかされていひ出る
　ことの葉もなく立わかれつゝ

五月十日夜　升子

●山形支會五月例會

五月第一日曜日には差支ありし爲め四月十三日第二日曜日をトし同市なる高等女學校に於て例會を催せり來會者五十三名席定まるや淺田醫學士には六月上旬栃木縣へ轉任せらるゝに付告別の言を述べられ星野衛戍病院長には育兒法につき川上醫學士には姙娠中の衣服及び飮食物につき中原醫學士には小兒コレラにつき其注意を簡短に述べられ午后四時閉會せりといふ

●山形支會の顧問

是迄山形支會の事は淺山醫學士專ら盡力せられしが今般轉任せられしをもて同會の講師なる醫學士川上雅量君は淺田氏に續ぎて萬事同支會の事を引受け盡力せらるゝよし萬謝に堪へざるなり偖願くば充分擴張せられんことを祈る

因に記す山形支會事務所は山形市檜物町二十一番地川上氏方へ移轉せりと云ふ

山形支會の園遊會

五月二十七日午前九時より同支會員の園遊會を開會長の庭園に開く會員及來賓とを合せて九拾餘名參會せり庭内には處々に休息所を設け餘興には樂隊落語等の催しありて永き日もいと短く過したりとのことなれば其盛會なりしこと推して知るべきなり

當日の寄附

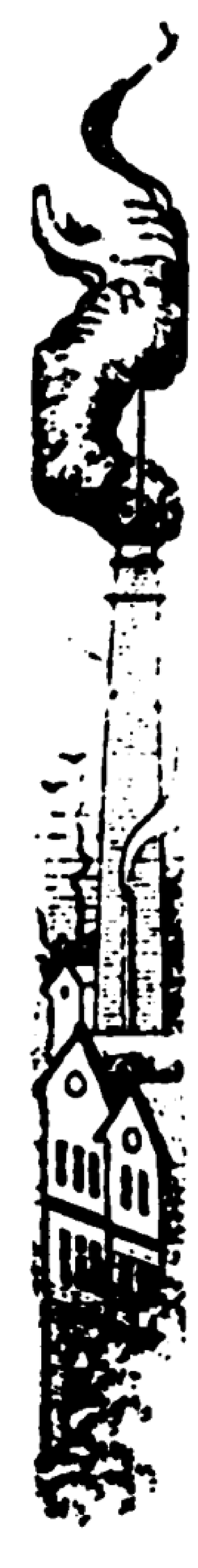
一金參圓五拾錢	閑むら子
一金壹圓	安村かつ子
一金五圓 幹事	千葉てる子・沖野りう子・國井よしな子・北川さだ子
一金壹圓	關根多賀子
一金五十錢	丸山ちせ子
一金五十錢	菅井ひさ子
一金五十錢	西野さね子
一樂隊	淺田決君・川上雅量君
	葛たみ子・小田切さわ子・溝淵こまゑ子・田中勘末子

一落語

加藤やす子
塚田きぬ子
大山はる子
沼宮内たみ子
山田すい子

園遊會收支決算

金貳拾八圓八拾五錢五厘	收入
金拾圓貳拾七錢	支出額
差引	
金拾圓五拾八錢五厘	現在高



本會々報

土方伯爵の寄附金

前きに土方伯爵夫人龜子逝去の際諸方より多く贈物ありし答禮を廢し此程故夫人の遺志を承けて金千圓を公共の利益を謀る日本赤十字社、東京慈惠醫院、東京養育院、大日本私立衛生會、東京感化院、茅ヶ崎少學校、私立大日本婦人衛生會、高知育兒會、原出獄人保護事業、瓜生會に寄附せられ本會へも鄭重なる書狀と共に左の通寄附せらるへき旨申越されたるが誠に御篤志の事なり

一金百圓　伯爵　土方久元君寄附

右報告候也

本會より土方伯爵への謝狀

> 謹啓陳者故伯爵夫人龜子殿御逝去被遊候に就ては公共事業へ御放資相成本會へも金百圓御寄附可被下趣御篤志の程萬謝の至に候右は本會の基本金に編入仕り永く紀念として保存可致候先は御禮迄如此に御座候敬具
>
> 明治三十三年六月十四日
>
> 私立大日本婦人衛生會々長
> 子爵夫人　仁禮壽賀子
>
> 伯爵土方久元殿

●新潟縣知事夫人勝間田千代子には新潟支會創設以來會長の任を負はれ御盡力不尠ざりしが今回東

京市へ御轉住隨て會長御辭任に付本會より左の謝狀を送呈せり

本會新潟支會創設以來會長の任を負はれ格別御盡力に依り緒に就き効益尠からす今回東京市へ御轉任の報に接し茲に謝辭を呈し候敬具

明治三十三年六月十四日

私立大日本婦人衛生會々長
子爵夫人　仁禮壽賀子

勝間田千代子殿

●本會の山形支會創設の爲め盡力せられたる醫學士淺田決君には今回宇都宮へ轉任せられたるにより本會より左の謝狀を送呈せり

謹啓貴きには新潟支會創設の爲め御盡力不尠山形縣下へ御轉任後又同地に本會の山形支會設立を計畫せらる貴下の御熱心誠に感銘の至に不堪候今回宇都宮へ御轉任の報に接し茲に謝辭を呈し候敬具

明治三十三年六月十四日

私立大日本婦人衛生會々長
子爵夫人　仁禮壽賀子

醫學士淺田決殿



●會員種類變更（六月分）

特別會員
從通常會員　山本多穗子

本會入會者（自五月中旬至六月中旬）

○牛込　四方ゐい子紹介

●長野縣小縣郡上田町六百二十一番地
通常會員　河内山とら子

●仝百十四番地　通常會員　長谷川まつ子
●仝千三百六十九番地　通常會員　田中かね子
●仝八百六十八番地　通常會員　加藤べん子
●仝七百八十七番地　通常會員　岩崎ふさ子
●仝六百四十二番地　通常會員　宇野すゑ子

○濱尾副會長紹介

●小石川區久堅町八十一番地　通常會員　牧野英子

○麻布　森園子紹介

●牛込區築土前町十二番地　通常會員　喜多村歌子
●麻布區笄町百九十二番地　通常會員　福永設子
●麻布市兵衛町二ノ八十四番地　通常會員　齊藤次子

○甲府贊成員　武藏秀直君紹介

●山梨縣北巨摩郡若神子村　通常會員　玉川とま子
●山梨縣北巨摩郡若神子村　特別會員　中田たけ子
●甲府市新柳町內藤あい子方　通常會員　內藤よし子
●甲府市彌生町三間戸　通常會員　藤井きよ子
●山梨縣北巨摩郡若神子村二百〇八番地　通常會員　坂本すみ子
●甲府市彌生町二番戸　通常會員　萩原とも子
●山梨縣山梨病院長　贊成員　醫學士　高橋貞頤君
●仝山梨病院醫長　贊成員　加賀朗君
●仝山梨病院副院長　贊成員　醫學士　村松鍬三君
●仝山梨病院內　通常會員　水谷とみ子
●甲府市錦町八十四番戸　通常會員　小林ひろ子

○甲府贊成員武田清四郎君紹介

●山梨縣西山梨郡千塚村大字千塚　贊成員　縫田子貞君
●甲府市下連雀町第五十三番戸　贊成員　池田潔君
●甲府市代官町二十六番戸　通常會員　長田てつの子
●甲府市櫻町　通常會員　權太きん子
●甲府市深町六十二番戸　通常會員　平井るい子
●甲府市柳町二百二十番地　通常會員　田村よね子
●甲府市愛宕町一〇一番地　特別會員　増田ちほ子
●甲府市堅町十二番地　通常會員　穴水うめじ子
●甲府市新紺屋町四十五番地　通常會員　原田とみ子

○日本赤十字　加藤つぎ子紹介

●伊勢國津市私立病院內　通常會員　桑名まき子

○牛込　和田愛子紹介

●牛込區仲町三十二番地　通常會員　石坂きよ子
●牛込區原町一丁目五十七番地　通常會員　小田川みつ子
●牛込區通寺町三十九番地　通常會員　福原清子
●牛込區若宮町三十七番地　通常會員　篠野雪江子
●牛込區北町愛日學校　通常會員　水野とり子

○日本橋　林つる子紹介

●京橋區築地二丁目十九番地　通常會員　磯部つや子

●京橋區木挽町十丁目六番地　通常會員　坂本千代子

○牛込　伴よし子紹介

●牛込區天神町七十八番地　通常會員　富永のぶ子

●神田區駿台袋町九番地　通常會員　大井まさ子

○事務所申込

●下谷區山伏町二十番地　通常會員　二ノ宮めぐり

●芝區愛宕町北里病院内　通常會員　伊藤きく子

●麹町區有樂町一丁目五番地　通常會員　矢野ふみ子

●北海道札幌病院内　通常會員　大木うん

●北海道室蘭港常磐町十三番地　特別會員　神林久美子

●北海道室蘭港常磐町十三番地　特別會員　山田いき子

●廣島縣字中島本町九十一番地　贊成員　小泉質君

●但馬國出石町伊木町二番地　通常會員　櫻井和香子

●神奈川靑木元町高木山　通常會員　丹羽賓子

●府下豊多摩郡千駄ヶ谷村五百三十一　通常會員　内村よゑ子

●埼玉縣大里郡吉見村　通常會員　長島ひさ子

○廣島贊成員　小泉質君紹介

●廣島市字上流町百三十六番次一番屋敷　通常會員　乃木千世子

○山形支會へ申込

●山形縣鍛口一〇八番地　通常會員　溝尾まさ子

●仝香澄町　通常會員　吉村こま子

●仝香澄町鍛口　通常會員　星野きよ子

○新潟支會へ申込中野悦子紹介

●新潟市學校町二番町　通常會員　金庭たま子

●仝所　通常會員　甲斐きく子

●仝所　通常會員　梅木しづ子

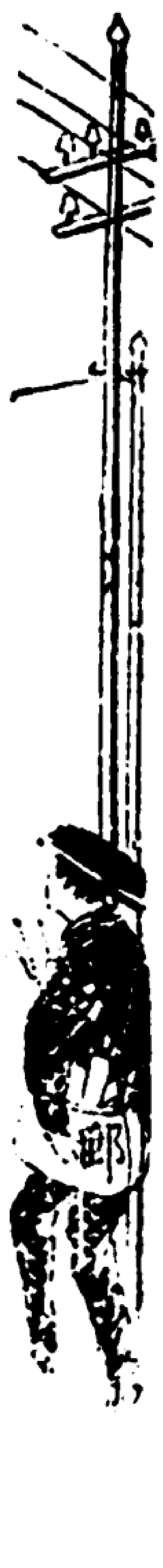
●仝所　通常會員　渡邊たつ子

●仝所　特別會員　千頭さく子

●仝所　通常會員　野中やち子

●仝所　通常會員　山口たつ子

●仝所　通常會員　神林むつ子



轉居

會員諸氏御轉居の際は必らず乍御手數事務所宛御一報相願候

●神田區堅大工町二十一番地山根方へ　竹内かれ子

●牛込區市谷藥王寺前町七十一番地へ　石栗させ子
●相州藤澤大坂町寺田調劑藥舗へ　寺田あい子
●日本橋區本船町中村屋方へ　山崎かつ子
●四谷區東信濃町十番地へ　内山訓子
●神田區錦町三丁目二十二番地へ　河崎春子
●赤坂區青山南町二町目六十番地へ　中濱千代子
●麹町區中六番町三十五番地へ　岡田きく子
●牛込區天神町六十六番地へ　青戸さく子
●麻布區広尾町百三十五番地へ　河合なよ子
●京橋區木挽町九町目三十一番地へ　鹿島糸子
●麹町區下二番町七十四番地へ　中濱よし子
●相州横須賀向山官舍甲十九號へ　湯地照子
●麹町區飯田町五ノ三十仁壽醫院奈良方へ　塚本静江子
●千葉縣印旛郡白井村折立へ　富澤いく子
●本郷區弓町二丁目二十八番地へ　越智雪子
●麻布區北日ヶ窪三十九番地へ　沖きよ子
●本郷四片町十番地いの十一へ　坪井なな子
●牛込區佐土原町三ノ十八番地へ　和田愛子
●麹町區六町目二十四番地へ　相原ひさ子
●芝區三田綱町八番地山本方へ　入江まさ子
●新吉原江戸町十七番地へ　米本つる子
●四谷區鮫ヶ橋南町四番地へ　勝間田千代子
●淺草區山の宿町五十三番地へ　野口かう子（杉浦改）
●芝區高輪南町三十一番地へ　小田切桂子
●茨城縣猿島郡古河町石町へ　丸山よし子
●本郷區弓町二丁目八番地寺尾方へ　松永くに子
●本郷區駒込千駄木町五十番地へ　岡田秀子
●神田區北神保町十三東都看護會へ　小林すて子
●神田區一ツ橋通町十三番地へ　東こめ子

弔詞

本會通常會員高瀬みき子（神田）及内藤いし子（神田）は今回長逝せられたるを以て本會は謹みて哀悼の意を表す

●正誤　本會第百二十五號雜誌中上村きよ子住所不明とせしは配逖人の誤て報告せしこと●第百二十六號中入會の部眞島敏子とせしは眞崎の誤り●又甲府特別會員平山する子とせしはつる子の誤り●又吉武あい子宿所を牛込余丁町五十九番とせしは百十九番地の誤に付茲に正誤す

●住所不明　元と名古屋愛知病院服部たき子●宇都宮大寛町大槻清子●大坂西區川口町傳通學校萬代愛子●京都圓山保養院松木正子●本所外手町宇敷かつ子●本所若宮町五四志賀かま子●京橋宗十郎町一高松よし子●下谷練塀町六十荒井かめ子諸氏は轉居先不明に付御承知の方は乍御手數御一報願上候也

交換寄送雜誌

（イロハ順）五月中

●日本婦人	第七號	東京帝國婦人協會
●統計集誌	第二百三十號	東京統計協會
●統計學雜誌	第百六十九號	東京統計學社
●獵友	一號四卷	東京狩獵協會
●看護婦人矯風雜誌	第七號	大日本看護婦人矯風會
●體育	第七十九號	東京日本體育會
●大日本私立衛生會雜誌	第二百四號	東京大日本私立衛生會
●大日本婦人教育會雜誌	第百廿四號	東京大日本婦人教育會
●通俗衛生	第二十二號	大坂私立衛生會
●藥學雜誌	第二百十九號	東京日本藥學會
●藝石新報	第三百五十四號 第三百五十五號	大坂藝石新報社
●團々珍聞	第千二百六十六號 第千二百六十七號	東京珍聞館
●婦人新報	第三十七號	東京婦人矯風會
●國家醫學會雜誌	第百五十七號	東京國家醫學會
●工業雜誌	第百九十五號	東京工業雜誌社
●越佐教育雜誌	第八十九號	新潟越佐教育雜誌社
●埼玉衛生雜誌	第百七十七號	埼玉大日本私立衛生會埼玉支部
●產科婦人科學雜誌	第二卷第九號	東京日本產科婦人學會
●教育實驗界	第五卷九、十號	東京育成會
●彰善會誌	第二十七號	東京彰善會本部
●淑女	第二卷第五號	東京紫鸞社
●女學講義	第二回第三十一卷	東京大日本女學會
●廣島衛生醫事月報	第十七號	廣島衛生醫事月報社

毎月壹回

淑女

顧問大和田建樹・
第二巻第五號
五月十五日發行

●一冊八錢●
半年四十六錢●一年九十錢

東京四谷南伊賀町 紫鸞

私立大日本衛生會

●新潟支會規則

第一條　本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼て一般慈善事業を爲すにあり

第二條　當支會の會員は左の六種とす

終身會員　一時限り出金貳拾圓
特別會員　毎月　金參拾錢
通常會員　仝　金貳拾錢
支會員　甲毎月　金拾錢
　　　　乙仝　金五錢

第三條　入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし

第四條　會費毎月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す

第五條　會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす

第六條　支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名主事一名を置く
會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す
各役員の任期は一ヶ年とし再撰するを得役員は總て無給とす

第七條　支會は毎月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演説をなすべし

第八條　毎年一月總會を開き支會の要務を擧行す

第九條　本會は毎年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし

第十條　天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし
會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は賛成員となすべし

第十一條　一般慈善事業の賛助天災事變の救濟の事務は役員會の決議により實施するものとす

第十二條　支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は成可く綿服を着用すべし

第十三條　特に本規則に掲げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

私立大日本婦人衛生會

●山形支會規則

第一條　本支會は私立大日本婦人衛生會々員山形市在任者を以て組織す

第二條　本支會に會長副會長の外幹事四名商議員若干名を置く
會長副會長は公撰し幹事商議員は會長之を撰任す
役員の任期は一ヶ年とす

第三條　本支會は毎月一回(第一日曜日)講話會を開き毎年一回(五月)總會を開き講話の外役員の撰擧庶務會計の報告をなす

第四條　入會せんと欲するものは宿所姓名並に第五條の通り會費を添へ會員に紹介を依賴すべし
本支會を退會せんとする時は其旨幹事に申出づべし

第五條　本會々費は會計幹事に納むべし
但し六ヶ月　又は一ヶ年分
新に入會のものは其月より六月又は十二月迄の分を一時に納むべし

第六條　服裝は精誠質素なるを要す
上着及羽織は絹布を用ゐるを禁ず

明治三十三年二月四日創立

私立大日本婦人衛生會
山形支會
事務所山形市檜物町川上方

（明治二十六年四月四日遞信省認可）

●大日本婦人衞生會規則摘要

一本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究せしめ衞生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

一會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得

一入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會者には會員證を交付す

一會員を分ちて終身特別及通常の三種とす

一終身會員は一時に金拾圓以上●特別會員一ヶ月金貳拾錢以上●通常會員一ヶ月金拾錢を納むるものとす

一男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じと雖も本會に功勞あるもの又は本會に於て特別贊成員たらんことを望みたる者は役員協議に依り無會費とすることあるべし

一會員は本會に於て每月發行する雜誌を無料にて受ることを得

一退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より又通知すべし但既納の會費は返戻せず

一集會は例會總會及評議會員とす集會は八九月を除くの外每月一回とし通常第一土曜日午后一時より開會するものとす
但每會學識經驗ある者に衞生上の講義演說談話を囑託し會員をして隨意聽講せしむるものとす

一會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を陪聽せしむるを得（勸めて衣服は質素たるべきこと）

一講議演說等は男子の傍聽を禁す但贊成員若くは會員縁故ある男子は此限にあらずと雖も贊成員の外は本會の都合に由り臨時謝絕することあるべし

●支會

一地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得

一本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載し申出づべし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報知すべし

一本會々員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす尙詳細は本會事務所へ承合すべし

注意

一會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便取扱所（東京牛込郵便局）宛振出あるべし又通運便にても差支なし

一會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に郵券三錢を添へらるべし

但止むを得ざる場合には郵券を代用するも妨げなしと云へども總て一割增とす

一轉居せられたるときは其旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

一會員中若し本會の障害となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざるものは役員會の決議を經て除名し若くは廣告することあるべし

本誌定價壹部金貳拾錢（會員へハ無料）每月一回發行

東京市牛込區矢來町三番地中丸、四

發行所　私立大日本婦人衞生會

東京牛込區矢來町三番地
編輯兼發行者　田中德三郎

東京牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷者　戸上義章

東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工塲